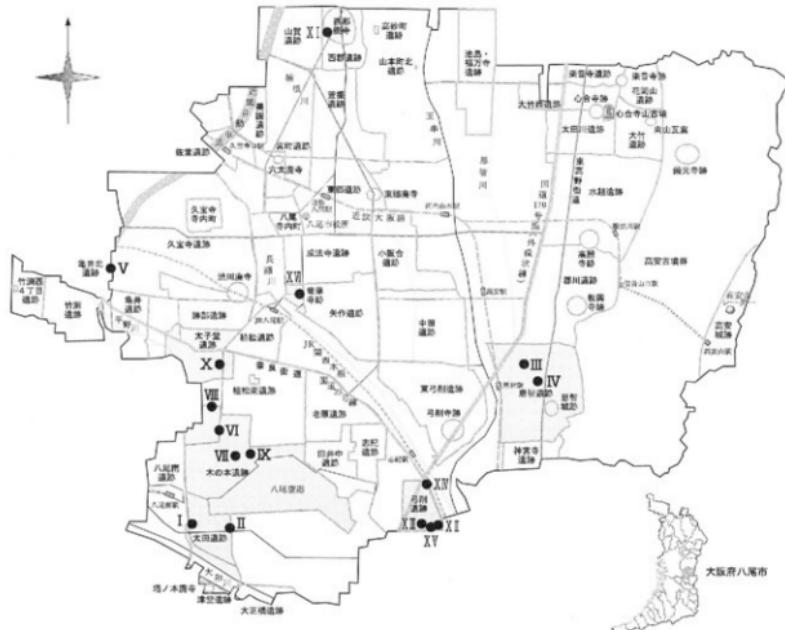


- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| I 太田遺跡（第10次調査）     | IX 木の本遺跡（第22次調査）  |
| II 太田遺跡（第11次調査）    | X 太子堂遺跡（第14次調査）   |
| III 恩智遺跡（第22次調査）   | XI 西郡庵寺（第8次調査）    |
| IV 恩智遺跡（第23次調査）    | XII 弓削遺跡（第12次調査）  |
| V 亀井北遺跡（第1次調査）     | XIII 弓削遺跡（第13次調査） |
| VI 木の本遺跡（第18次調査）   | XIV 弓削遺跡（第14次調査）  |
| VII 木の本遺跡（第19次調査）  | XV 弓削遺跡（第15次調査）   |
| VIII 木の本遺跡（第20次調査） | XVI 龍華寺跡（第4次調査）   |

2012年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| I 太田遺跡(第10次調査)     | IX 木の本遺跡(第22次調査)  |
| II 太田遺跡(第11次調査)    | X 太子堂遺跡(第14次調査)   |
| III 恩智遺跡(第22次調査)   | XI 西郡廃寺(第8次調査)    |
| IV 恩智遺跡(第23次調査)    | XII 弓削遺跡(第12次調査)  |
| V 亀井北遺跡(第1次調査)     | XIII 弓削遺跡(第13次調査) |
| VI 木の本遺跡(第18次調査)   | XIV 弓削遺跡(第14次調査)  |
| VII 木の本遺跡(第19次調査)  | XV 弓削遺跡(第15次調査)   |
| VIII 木の本遺跡(第20次調査) | XVI 龍華寺跡(第4次調査)   |



2012年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

## はしがき

八尾市は、大阪府の中央部東に位置し、西は上町台地、東は生駒山地、南は羽曳野丘陵に囲まれた山麓・丘陵先端から平野部にかけて立地しています。山麓や丘陵先端部には、古くは旧石器時代に遡り得る人々の生活の痕跡が点在しています。また、平野部では古大和川水系の河川が運び続ける土砂が厚く堆積しており、その中に弥生時代以降の生活の跡が連続と積み重なっています。

このような先人達の残した財産－埋蔵文化財－は、市民が共有すべき財産であるといつても過言ではありません。しかし、市民生活の利便性や豊かさを追求するための開発工事は、一方ではこのような共有財産を破壊することが前提となってしまいます。そこで私どもは、開発工事によって破壊される埋蔵文化財について事前に発掘調査を行い、記録保存・研究に努めているところであります。

本書は、市民生活に密接にかかわる公共下水道工事に伴う発掘調査の報告をまとめたもので、平成22・23年度に行った16件の調査成果が収録されています。いずれも小規模な調査ではありますが、弥生時代前期以降、中近世に至るまでの遺構や遺物が検出されております。本書が地域史、ひいては日本史解明の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、多くの関係諸機関および地元の皆様方に、多大な御協力をいただきましたことを心から厚く御礼申し上げます。

平成24年3月

財團法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 西浦昭夫

# 序

1. 本書は、財団法人八尾市文化財調査研究会が平成22・23年度に実施した八尾市公共下水道工事に伴う発掘調査の成果報告を収録したもので、内訳は下表のとおりである。
1. 本書で報告する発掘調査業務は、八尾市教育委員会と八尾市、及び当調査研究会の三者により締結した協定に基づくもので、八尾市教育委員会からの埋蔵文化財調査指示書により当調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 本書作成の業務は、八尾市と当調査研究会で交した覚書に基づき、各現地調査終了後に着手し、平成24年3月をもって終了した。
1. 本書に収録した報告は、下記の目次のとおりである。
1. 本書の構成・編集は当調査研究会 坪田真一が行った。
1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1(平成8年7月発行)・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布地図』(平成22年度版)をもとに作成した。
1. 本書で用いた標高の基準は東京湾標準潮位(T.P.)である。
1. 本書で用いた方位は座標北(国土座標第VI系〔日本測地系〕)を示している。
1. 遺構名は下記の略号で示した。  
土坑 - SK 溝 - SD ピット - SP 自然河川 - NR
1. 遺物実測図の断面表示は、須恵器が黒、その他を白とした。
1. 土色については『新版標準土色帖』1997年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
1. 各調査に際しては、写真・カラースライド・実測図を、後世への記録として多数作成した。各方面的な幅広い活用を希望する。

平成22年度	平成23年度
III 恩智遺跡第22次調査(O J 2010-22)	I 太田遺跡第10次調査(O O T 2011-10)
V 亀井北遺跡第1次調査(K M N 2010-1)	II 太田遺跡第11次調査(O O T 2011-11)
VI 木の本遺跡第18次調査(S K 2010-18)	IV 恩智遺跡第23次調査(O J 2011-23)
VII 木の本遺跡第19次調査(S K 2010-19)	X 太子堂遺跡第14次調査(T S 2011-14)
VIII 木の本遺跡第20次調査(S K 2010-20)	XIV 弓削遺跡第14次調査(Y G E 2011-14)
IX 木の本遺跡第22次調査(S K 2010-22)	XV 弓削遺跡第15次調査(Y G E 2011-15)
XI 西郡廃寺第8次調査(N K T 2010-8)	
XII 弓削遺跡第12次調査(Y G E 2010-12)	
XIII 弓削遺跡第13次調査(Y G E 2010-13)	
XIV 龍華寺跡第4次調査(R K 2010-4)	

# 目 次

## はしがき

## 序

I	太田遺跡 第10次調査(O O T 2011-10).....	1
II	太田遺跡 第11次調査(O O T 2011-11).....	7
III	恩智遺跡 第22次調査(O J 2010-22).....	15
IV	恩智遺跡 第23次調査(O J 2011-23).....	21
V	亀井北遺跡 第1次調査(K M N 2010-1).....	29
VI	木の本遺跡 第18次調査(S K 2010-18).....	35
VII	木の本遺跡 第19次調査(S K 2010-19).....	41
VIII	木の本遺跡 第20次調査(S K 2010-20).....	45
IX	木の本遺跡 第22次調査(S K 2010-22).....	51
X	太子堂遺跡 第14次調査(T S 2011-14).....	57
XI	西郡廃寺 第8次調査(N K T 2010-8).....	61
XII	弓削遺跡 第12次調査(Y G E 2010-12).....	69
XIII	弓削遺跡 第13次調査(Y G E 2010-13).....	75
XIV	弓削遺跡 第14次調査(Y G E 2011-14).....	81
XV	弓削遺跡 第15次調査(Y G E 2011-15).....	85
XVI	龍華寺跡 第4次調査(R K 2010-4).....	91

報告書抄録

## I 太田遺跡第10次調査（O O T 2011-10）

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市太田新町1・3丁目地内で実施した下水道工事(23-36工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する太田遺跡第10次調査(OOT2011-10)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年10月25日～11月22日(外業実働4日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約12m<sup>2</sup>である。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　　遺物実測－伊藤静江・村井俊子、遺物トレース－市森千恵子、その他－坪田
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　文　目　次

1. はじめ	1
2. 調査概要	2
1) 調査の方法と経過	2
2) 基本層序と出土遺物	2
3) 検出遺構と出土遺物	2
3. まとめ	4

# I 太田遺跡第10次調査(OOT2011-10)

## 1. はじめに

太田遺跡は八尾市南部に位置する弥生時代～中世に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、太田3・4・9丁目、太田新町1・3丁目がその範囲とされている。地理的には南から伸びる羽曳野丘陵の先端部と、北側に広がる旧大和川が形成した沖積地との接点部に位置する。周辺では、北側に木の本遺跡、西側に八尾南遺跡、東側に大正橋遺跡、南側には大和川を挟んで津堂遺跡が存在する。

今回の調査地は遺跡範囲の北西部に位置している。周辺での調査成果を概観すると、北部で実施した遺構確認調査(太田遺跡2005-366)において、古墳時代初頭の集落域を確認しており、土坑からは膨大な量の土器が出土している。また西側に隣接する八尾南遺跡域で実施した第21次調査(Y S 94-21)や遺構確認調査(八尾南遺跡95-248、2001-491)においても、弥生時代後期末～古墳時代初頭の集落域を確認している他、南西部の(府02・03)では弥生時代後期中葉の居住域や、弥生時代後期末～古墳時代初頭の居住域・墓域が確認されている。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市太田新町1・3丁目地内で実施した公共下水工事(23-36工区)に伴う調査で、当調査研究会が太田遺跡内で行った第10次調査(OOT2011-10)である。

調査地は人孔部分(規模約2.0×2.0m)2箇所で、地区名は西から1・2区とした。なお両区共に、調査を開始したところ地下構造物の存在が確認されたため、1区は東に約1.8m、2区は西に約1.9m、当初予定した調査位置から移動させている。このため総面積は約8m<sup>2</sup>の予定であったが、約12m<sup>2</sup>となった。調査はすべて夜間調査である。

調査は現地表(T.P.+11.8~12.0m)下約2.3mまでについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事図面記載の各調査地点地盤高を標高の基準とした。

### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

0層は盛土。1層は旧耕土。2層は攪拌された作土である。時期は近世であろう。3層も攪拌された作土である。4層は土壤化層で、弥生時代前期の土器片が出土したが、後世の混入であろう。5層は水成層と思われ、下位で検出したSD1の上位に見られることから、SD1埋没後の最終堆積部分にあたると捉えられる。6層は水成層で、洪水砂と考えられる。7・8層は土壤化層で、8層は暗色を呈する。8層からは弥生時代前期の土器が出土している。7層上面が遺構面である。9層は水成層と考えられ、上部は土壤化する。

#### 2区

0層は盛土。以下、粘土～シルト質粘土基調の堆積が続く。1層は土壤化層で作土の可能性がある。2層は砂粒を多く含む層相で、土壤化層と考えられる。3層は湿地性の堆積と考えられるが、やや土壤化していると思われる。4・6層は土壤化層で、弥生時代前期～中期の遺物包含層である。6層は暗色を呈する。間層である5層の細粒砂～粗粒砂は洪水砂の可能性があり、東部で見られた。7層はブロック状を呈する土壤化層で、遺構埋土あるいは作土の可能性がある。8層は暗色を呈する土壤化層である。9層は水成層の可能性がある。

### 3) 検出構構と出土遺物

#### SD1

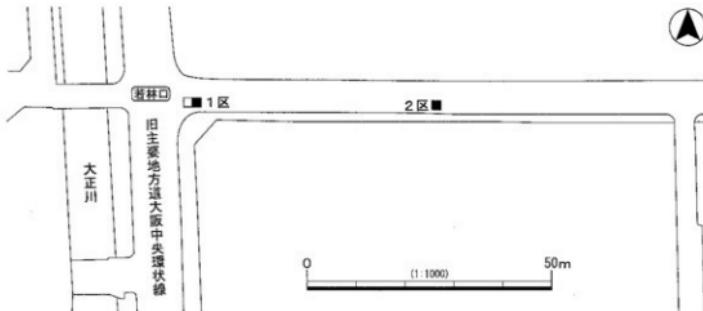
1区7層上面で検出した東西方向に直線的に伸びる溝である。規模は西壁で幅約1.3m・深さ約60cmを測り、断面逆台形を呈する。内部は7層上面を覆う洪水砂と考えられる6層により充填される状況で、顕著なラミナ構造は見られず、洪水により一気に埋まつものと推察される。遺物は弥生土器底部が1点出土した(2)。2は壺底部で、外面調整はヘラミガキと思われるが不明瞭である。前期のものと考えられる。

#### 1区8層出土遺物(1)

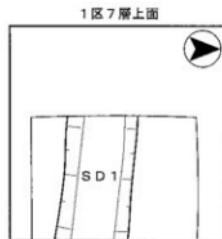
1は復元口径18.0cmを測る小形の甕口縁部である。外反させた口縁端部に刻み目を施し、口縁部直下に3条の箋描沈線を巡らせる。弥生時代前期新相に比定される。

#### 2区4・6層出土遺物(3～9)

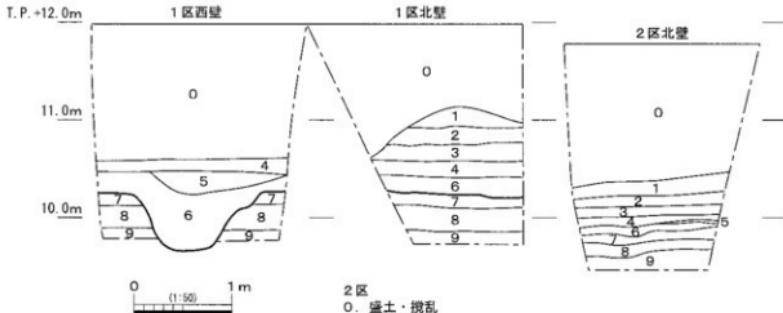
3は広口壺で、復元口径18.8cmを測る。調整は頸部外面にタテハケが見られるが、他は不明瞭である。頸部外面には7条の箋描沈線を巡らせる。4は壺底部で、外面調整はヘラミガキである。外面に黒斑を有する。5・6は甕口縁部である。5は口縁端部に刻み目を施し、口縁部直下に箋



第2図 調査区位置図



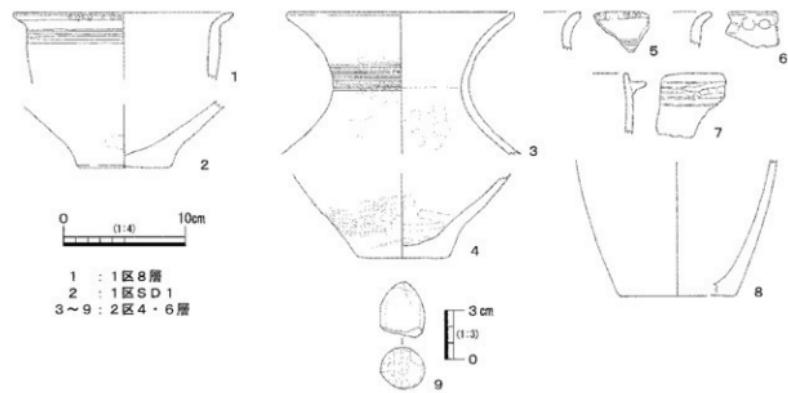
1. 盛土・擾乱
2. 暗緑灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 旧耕土
3. 暗オリーブ灰色極細粒砂混粘土質シルト 搾拌作土
4. オリーブ灰色極細粒砂混粘土質シルト 搾拌作土
5. 黄褐色細粒砂～粗粒砂多混粘土質シルト 土壌化層
6. 黄褐色シルト～細粒砂 水成層
7. 暗緑黄色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 土壌化層
8. 暗褐色細粒砂少混シルト質粘土 土壌化層
9. 灰色シルト質粘土 上部土壤化 水成層？



0. 盛土・擾乱
1. 暗褐色細粒砂混粘土 上部Fe斑 作土？
2. 暗灰色細粒砂～粗粒砂多混シルト質粘土
3. 黄褐色細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 土壤化層？
4. 暗灰黄色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 Fe斑 遺物包含層
5. 暗灰色細粒砂～粗粒砂 混水砂？
6. 暗灰色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 岩 Fe斑 遺物包含層
7. オリーブ黄色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 Fe斑 搾拌土土壤化層
8. 暗黄色細粒砂混シルト質粘土 土壤化層
9. 暗灰色細粒砂混シルト質粘土 水成層？

第3図 平断面図

描沈線を巡らせる。7は直口口縁の鉢と考えられる。口縁部に5条の鉢描沈線を巡らせ、端部や下位に幅約3.5cmの扁平な把手(おそらく1対)を有する。これらの土器は弥生時代前期新相に比定される。8は底部で、壺と思われるが明確ではない。9は高さ約3.3cm・直径2.7cmの砲弾型を成す土製品である。弥生時代前期の鉢に付されるような瘤状突起の可能性もあるが詳細は不明である。



第4図 出土遺物

### 3.まとめ

今回の調査では、周辺で確認されていなかった弥生時代前期の集落の存在が明らかになった。続く中期では北西部で実施した造構確認調査(八尾南遺跡2001-491、太田遺跡2011-231)において造構を検出しており、南への集落域の広がりが確認されたと言える。1区検出のSD1については、遺物も出土しておらず詳細は不明であるが、洪水砂により埋没している状況から勘案して、南西部の八尾南遺跡域(府02・03)で確認されている弥生時代後期の集落との関連が考えられる。

### 参考文献

- 原田昌則2007「1-1 太田遺跡(2005-366)の調査」「八尾市内遺跡平成18年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告55 平成18年度国庫補助事業】八尾市教育委員会
- 坪田真一1998「VI 八尾南遺跡第21次調査(Y S94-21)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告61」財団法人八尾市文化財調査研究会
- 吉田野乃1996「16 八尾南遺跡(95-248)の調査」「八尾市内遺跡平成7年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告33 平成7年度国庫補助事業】八尾市教育委員会
- 坪田真一2003「32 八尾南遺跡(2001-491)の調査」「八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告48 平成14年度国庫補助事業】八尾市教育委員会
- 岡本茂史・森原美佐子・他2008「八尾南遺跡 大和川改修(高規格堤防)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」(財)大阪府文化財センター調査報告書第172集】(財)大阪府文化財センター



1区機械掘削(西から)



1区北壁



1区SD1(東から)



1区SD1(北から)



1区SD1西壁



2区機械掘削(南から)



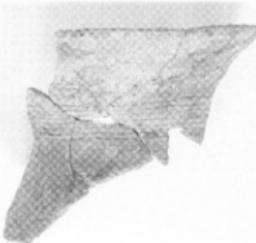
2区土器出土状況(南から)



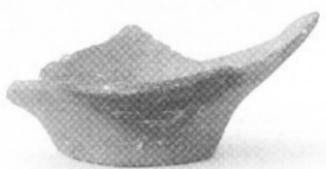
2区北壁



1



3



4



5



7



9

## II 太田遺跡第11次調査（O O T 2011-11）

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市太田新町2丁目地内で実施した下水道工事(23-37工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する太田遺跡第11次調査(OOT2011-11)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年11月9日～11月11日(外業実働3日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約12m<sup>2</sup>である。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
遺物復元－梶本潤二・竹田貴子・田島宣子、遺物実測－飯塚直世・市森千恵子・芝崎和美、  
遺物トレース－市森、その他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに	7
2.調査概要	8
1) 調査の方法と経過	8
2) 基本層序と出土遺物	8
3) 検出遺構と出土遺物	8
3.まとめ	10

## II 太田遺跡第11次調査(OOT2011-11)

### 1. はじめに

太田遺跡は八尾市南部に位置する弥生時代～中世に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、太田3・4・9丁目、太田新町1・3丁目がその範囲とされている。地理的には南から伸びる羽曳野丘陵の先端部と、北側に広がる旧大和川が形成した沖積地との接点部に位置する。周辺では、北側に木の本遺跡、西側に八尾南遺跡、東側に大正橋遺跡、南側には大和川を挟んで津堂遺跡が存在する。

今回の調査地は遺跡範囲の北部に位置している。周辺では南側で大阪府教育委員会による調査(府1990)、当研究会による第2次調査(00T95-2)が実施されている程度で、あまり発掘調査が行われていない地域といえる。府1990では河川、00T95-2では弥生時代末～古墳時代の遺構が検出されている。一方、西部では当研究会第4～9次調査を実施しており、第8次調査では縄文時代～中世の遺構・遺物を検出した他、旧石器時代の地層から石器も出土している。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市太田新町2丁目地内で実施した公共下水工事(23-37工区)に伴う調査で、当調査研究会が太田遺跡内で行った第11次調査(OOT2011-11)である。

調査地は人孔部分(規模約2.0×2.0m)3箇所で、総面積は12m<sup>2</sup>を測る。地区名は北から1~3区とした。なお調査はすべて夜間調査である。

調査は現地表(T.P.+11.2~11.5m)下2.2~2.5mまでについて、機械・人力掘削併用で実施した。調査では工事図面記載の各調査地点地盤高を標高の基準とした。

### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

0層は盛土。1層は水成層と思われ、上部は土壤化している。2層は攪拌されており作土と考えられる。3層はシルト質粘土～中粒砂の複雑な堆積で、作土の可能性がある。4~6層は砂粒をブロック状に含む粘土層で作土であろう。7層は暗色を呈する土壤化層である。8層の粘土質シルトは水成層であろう。7・8層は2・3区8・9層に対応する可能性がある。1区から遺物は出土していない。

#### 2・3区

近接する2・3区ではほぼ同様の層序が認められた。0層は盛土。1層は水成層と思われ、汚れた層相で針金を含んでおり、時期は近代であろう。2~4層は粘土質シルト～粘土の層相で、沼沢地状の堆積である。1区の2~6層のいずれかに対応すると考えられるが、2・3区では作土化されていないのである。2層上面が3区で検出した第1面である。5層は砂粒優勢の水成層で、河川堆積あるいは洪水砂である。6層はFe斑を多く含む粘土で、作土の可能性がある。7層は暗色を呈する土壤化層で、弥生時代後期の遺物包含層である。8層は9層の土壤化部分と捉えられる。上面が2区で検出した第2面である。9層のシルト質粘土は水成層であろう。

### 3) 検出遺構と出土遺物

#### N R 1

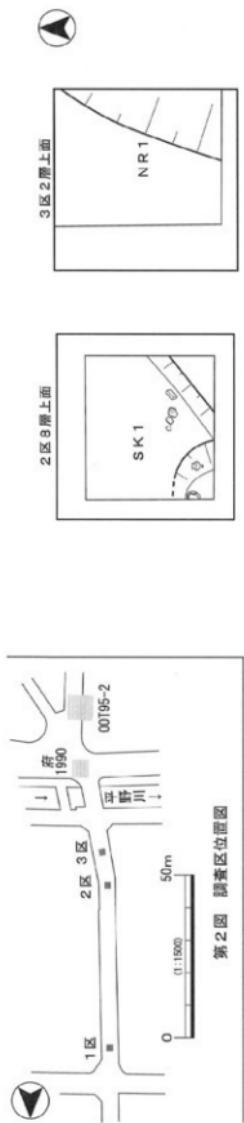
3区東部の2層上面(T.P.+10.4m)で、南北方向に延びる西肩を検出したもので、自然河川としたが詳細は不明である。規模は幅0.7m以上・深さ0.8m以上を測る。埋土は3層(A1~A3層)を確認した。遺物は出土していない。層位的に時期は近世であろう。

#### S K 1

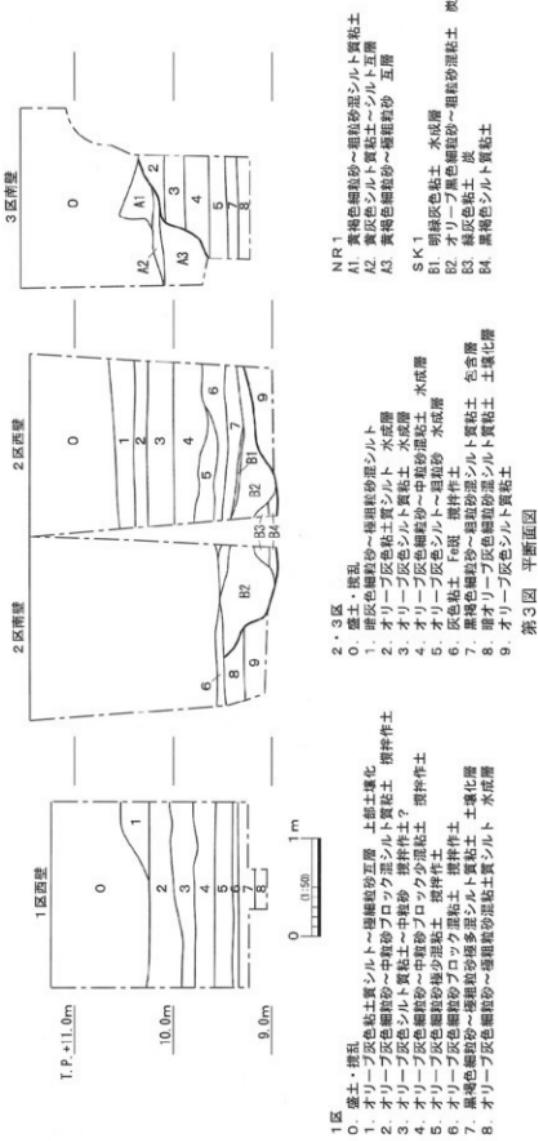
2区8層上面で検出した。調査区南東部で検出した北東～南西方向の直線的な肩から北西に向って落ち込む状況である。規模は南北1.3m以上・東西1.5m以上を測る。深さ約30cmを測り、底面はほぼ平坦であるが、北西に向ってやや高くなっている。また南西部はやや落ち込む状況である。埋土は4層(B1~B4層)を確認した。B2・B3層はブロック状で炭を多く含んでいる。土坑としたが、平坦な底面を有することから、竪穴住居の可能性も考えられよう。

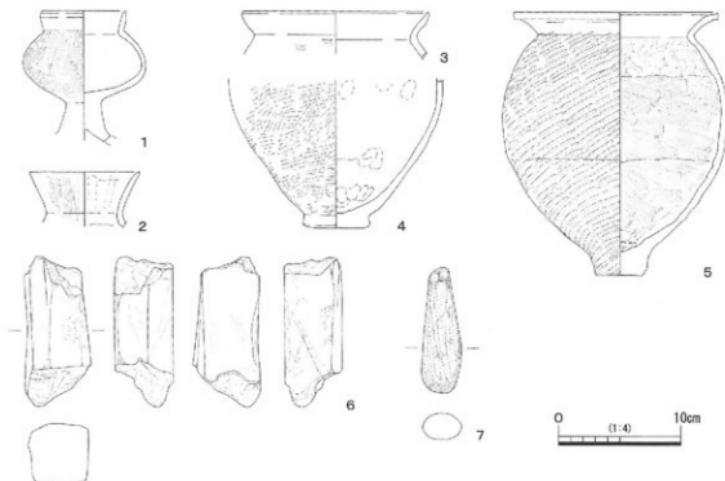
遺物は弥生時代後期に比定される土器や石器が出土しており、1~7を図化した。

1は台付きの短頸直口壺である。口縁端部外面に2条の沈線を巡らせ、脚台部には円孔(おそ



第2図 調査区位置図





第4図 出土遺物

らく3方向)を穿つ。調整はヘラミガキを基調とし、部分的に先行するハケが見られる。口縁部～体部外面に黒斑を有する。口径7.0cm・体部最大径10.0cmを測る。2は広口壺で、口縁部外面にヘラミガキを施す。3～5は壺である。4は外面平行タタキで、底面にもナデに先行する平行タタキが認められる。外面全体が煤ける。5は口縁部1/2を欠くもので、口径16.6cm・器高21.5cm・体部最大径18.4cm・底径4.0cmを測る。外面の平行タタキは明瞭で、口縁部下位から底部外面最下位に及ぶ。内面はハケである。口縁部外面及び体部中位が煤ける。5は南西部の落ち込み部分から出土した。6は断面方形を成す棒状の砥石で、両端部を欠く。全面を使用しており、うち一面の両縁が面取り状に使用されている。また一面には幅0.5mm程度のV字溝状の使用済みが見られる。灰白色を呈し、石材は流紋岩と思われる。残存長12.2cm・幅約4.8cmを測る。7は断面楕円形の棒状石製品で、端部は丸く、一端は欠損している。用途は不明である。砂岩製で、風化しており脆い。残存長10.4cm・幅3.2cm×2.2cmを測る。

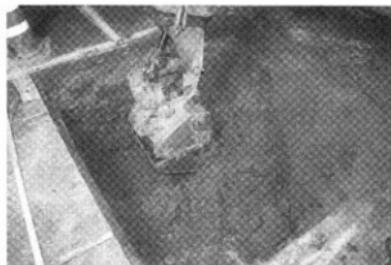
#### 4.まとめ

南の2・3区では弥生時代後期の遺構・遺物包含層を検出し、南部で確認している当該期の集落域の北への広がりを確認した。2区検出の土坑は竪穴住居の可能性も考えられ、この一帯が集落の中心にあたるのかもしれない。北の1区では対応する地層は見られたものの、遺構・遺物は検出されず、集落域が及んでいない可能性が高い。

古墳時代以降については湿地性の堆積が続き、居住域に伴う遺構や遺物は見られなかった。1区では数枚の作土層が見られ、生産域としての土地利用が続いていることを確認した。北部の木の本遺跡域では古代の生産域が確認されており、当地にも及んでいるものと考えられる。

参考文献

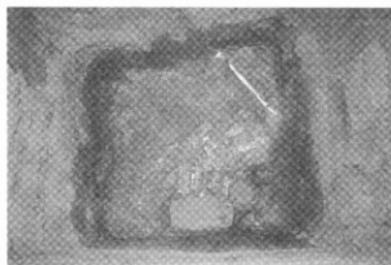
- ・亀島重則1990『太田遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会
- ・西村公助1996「IV 太田遺跡第2次調査(OOT95-2)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告53』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋2007「I 太田遺跡(第7次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告104』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助2007「II 太田遺跡(第8次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告104』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則1983「木の本遺跡－八尾空港整備事業に伴う発掘調査－」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告4』財団法人八尾市文化財調査研究会



1区機械掘削(南東から)



1区西壁



2区SK 1(西から)



2区SK 1遺物出土状況(北から)



2区西壁



2区南壁



3区NR 1(北から)

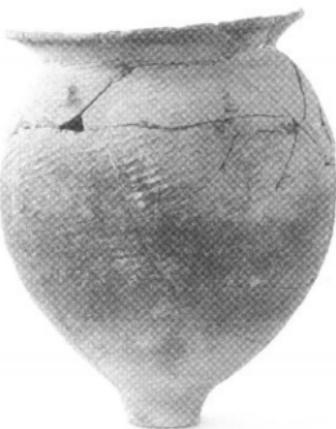


3区南壁

図版  
2



1



5



—



7



4



6



### III 恩智遺跡第22次調查（O J 2010-22）

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智北町二丁目地内で実施した公共下水道工事(22-20工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第22次調査(OJ 2010-22)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成22年9月13日～9月16日(外業実働4日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約21.7m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、市森千恵子・梶本潤二・竹田貴子・田島宣子・永井律子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　　遺物実測－伊藤静江、他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに	15
2.調査概要	17
1) 調査の方法と経過	17
2) 層序	17
3) 検出遺構と出土遺物	17
3.まとめ	17

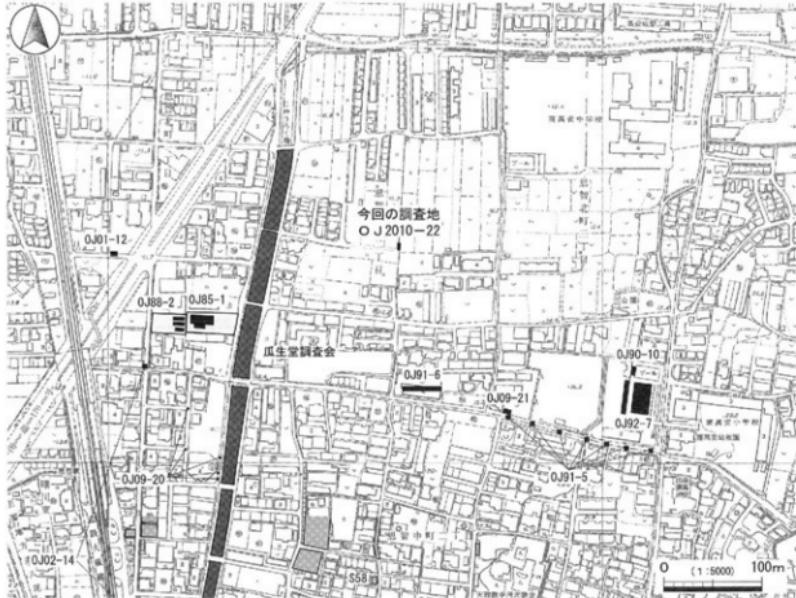
### III 恩智遺跡第22次調査(O J 2010-22)

#### 1. はじめに

恩智遺跡は、八尾市南東部に位置する旧石器時代～鎌倉時代に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、恩智北町1～4丁目、恩智中町1～5丁目、恩智南町1～5丁目にあたり、南北約1.0km、東西約1.2kmがその範囲とされる。地理的には生駒山地西麓から形成された扇状地から低地部にかけて広がっており、周辺では、北側に郡川遺跡、南側に神宮寺遺跡、西側に玉串川を挟んで東弓削遺跡が存在する。

本遺跡は、大正6年(1917)の梅原末治・島田貞彦両氏による踏査と鳥居龍藏氏による試掘調査、昭和14年(1939)の大坂府の事業による藤岡謙二郎氏の発掘調査、昭和23年(1948)の今里幾次氏による出土遺物の報告をはじめとした多くの調査が実施されており、縄文時代～弥生時代を中心とした遺跡として古くから周知されている。近年も天王の杜周辺とその南～南西側、北側を中心に多くの発掘調査が行われ、本遺跡は天王の杜周辺から北西～西側を中心に展開していたことが判明している。

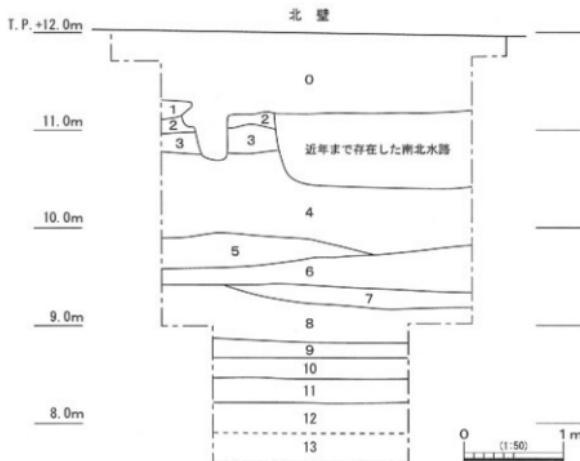
今回の調査地は遺跡北部にあたり、これまであまり発掘調査が行われていない地域である。南北約150m地点で実施した第6次調査(O J 91-6)では、弥生時代中期前半の遺構が検出されている。



第1図 調査地位置図



第2図 調査地平面図



0. 盛土
1. 10Y6/1灰色シルト～中粒砂互層
2. 5G3Y/1暗オリーブ灰色極細粒砂～中粒砂混シルト 旧耕土
3. 7.5GY5/1緑灰色極細粒砂～中粒砂多混シルト 下部Fe斑 授拌作土
4. 5GY5/1オリーブ灰色シルト質粘土～中粒砂互層 河川堆積
5. 10YS/1灰色粘土～極細粒砂互層 河川堆積
6. 7.5Y4/1灰色細粒砂～粗粒砂混シルト Fe斑 固く締まる
7. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色極細粒砂～粗粒砂多混粘土質シルト 湿地性堆積
8. 7.5Y3/1オリーブ黒色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 弥生中期包含層
9. 7.5Y3/1オリーブ黒色細粒砂～粗粒砂多混シルト 汚れた土壤化層
10. 5GY6/1オリーブ灰色細粒砂～細粒混シルト 河川堆積
11. 7.5Y5/1灰色シルト～極粗粒砂互層 河川堆積
12. 10YR3/2黒褐色極細粒砂～細粒砂混粘土質シルト～シルト 植物遺体多 河川堆積
13. 10Y5/1灰色細粒砂～粗粒砂互層 河川堆積

第3図 北壁断面図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市恩智北町二丁目地内で実施された公共下水工事(22-20工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第22次調査(O.J 2010-22)である。

調査地は道路上に設定された発進立坑部分で、平面の規模は南北約7.35m×東西約2.95m、面積は約21.7m<sup>2</sup>を測る。

調査は工事掘削深度である現地表(T.P.+12.0m)下4.6mまでについて、人力・機械を併用して掘削し、遺構・遺物の検出に勤めた。

調査で使用した標高値の基準は、工事使用のKBM. 3 (T.P.+12.082)である。

### 2) 基本層序

北壁断面を基本層序とする。

第0層は盛土。調査地東半ではこの直下で近年まで存在した南北方向の水路(A)が見られる。第2層が旧耕土で、第1層の流水堆積はその耕作に伴う層であろう。第3層も作土で、時期は中世～近世であろう。第4・5層は河川堆積で、層厚1.2mを測る。第6層は作土と考えられるが詳細は不明である。固く締まる層相で整地層の可能性もある。第7層は湿地性の自然堆積層である。第8層は一見黒色を呈する土壤化層で、弥生時代中期の土器を少量含む。第9層は第10層の土壤化部分と捉えられる汚れた層相である。第10層以下は粘土質シルト～極粗粒砂の互層からなる河川堆積が続く。第12層は植物遺体をラミナ状に多量に含む層相である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

明確な遺構は検出されなかつたが、T.P.+8.8mの第9層上面が弥生時代中期の遺構面となる可能性がある。第4層(河川)出土の1、第8層出土の2を図化した。

1は甕で、調整は口縁部ヨコナデ、体部ナデで、頸部内面には横方向のヘラミガキを施す。器底はやや磨耗している。2は高杯口縁部である。共に生駒西麓産の胎土で、弥生時代中期後半に比定される。



第4図 出土遺物

### 3. まとめ

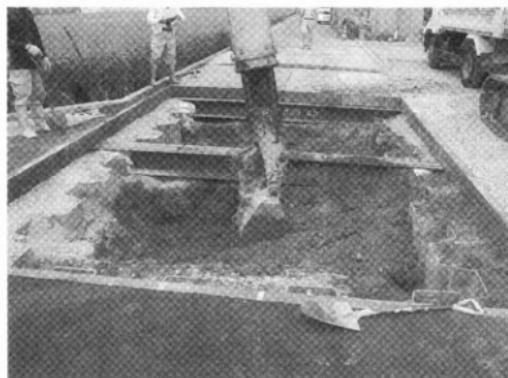
これまであまり調査が行われていなかった恩智遺跡範囲の北部において、弥生時代中期後半の遺物包含層(第8層)を確認した。遺物量は少量であり集落の中心とは言い難いが、南部で確認されている当該期の集落域が当地にまで及んでいることが確認されたといえる。

### 参考文献

- ・原田昌則1992「V 恩智遺跡第6次調査(O.J 91-6)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 八尾市文化財調査研究会報告34」財团法人八尾市文化財調査研究会



調査地(南西から)



機械振削(南から)



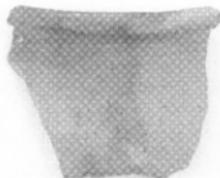
北壁(GL~T.P.+10.4m)



北壁(T.P.+10.4~9.0m)



北壁(T.P.+9.4~8.0m)



1



2



IV 恩智遺跡第23次調查（O J 2011-23）

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智中町2丁目地内で実施した公共下水道工事(23-20工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第23次調査(OJ 2011-23)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成23年10月24日～11月28日(外業実働4日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約20m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、伊藤静江・梶本潤二・芝崎和美・竹田貴子・田島宣子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　　遺物実測－市森千恵子・村井俊子、遺物トレース－市森、その他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　文　目　次

1.はじめに	21
2.調査概要	22
1) 調査の方法と経過	22
2) 基本層序と出土遺物	22
3) 検出遺構と出土遺物	22
3.まとめ	25

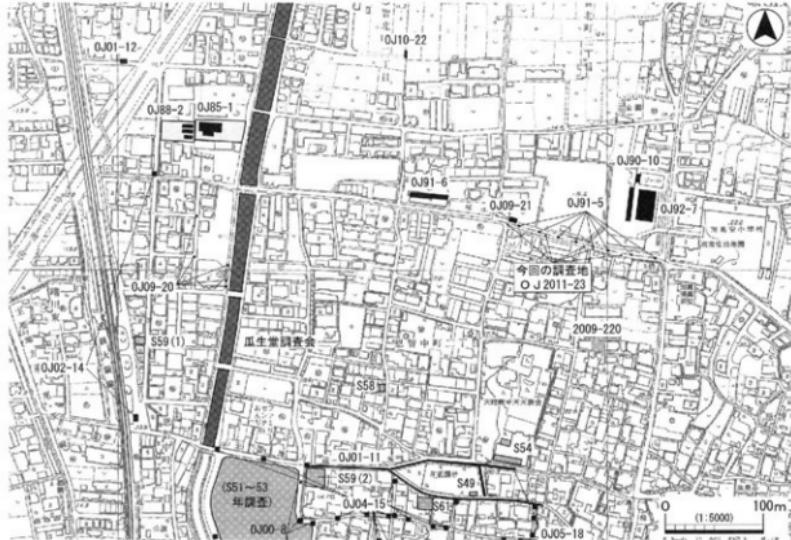
## IV 恩智遺跡第23次調査(O J 2011-23)

### 1. はじめに

恩智遺跡は、八尾市南東部に位置する旧石器時代～鎌倉時代に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、恩智北町1～4丁目、恩智中町1～5丁目、恩智南町1～5丁目にあたり、南北約1.0km、東西約1.2kmがその範囲とされる。地理的には生駒山地西麓に形成された扇状地から低地部にかけて広がっており、周辺では、北側に郡川遺跡、南側に神宮寺遺跡、西側に玉串川を挟んで東弓削遺跡が存在する。

本遺跡については、古くは大正6年(1917)の梅原末治・島田貞彦両氏による踏査と鳥居龍藏氏による試掘調査、昭和14年(1939)の大坂府の事業に伴う藤岡謙二郎氏の発掘調査、昭和23年(1948)の今里幾次氏による出土遺物の報告等がある。そして昭和50～53年(1975～1978)には恩智川改修工事に伴う大規模な調査が瓜生堂遺跡調査会により実施された。これらの調査により当遺跡は縄文時代～弥生時代を中心とした遺跡として認識されている。近年も天王の杜周辺とその南～南西側、北側を中心に多くの発掘調査が行われ、本遺跡は天王の杜周辺から北西～西側を中心に展開していたことが判明している。

今回の調査地は遺跡範囲の中心部にある。周辺では当研究会が第5～7・21次調査を実施しており、第5次調査では古墳時代前期・中期、第6次調査では弥生時代中期前半の遺構を検出している。また遺構確認調査(2009-220)では縄文時代後期～晩期の遺物包含層を確認している。



第1図 調査区位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市恩智中町2丁目地内で実施された公共下水工事(23-30工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第23次調査(O J 2011-23)である。

調査区は東西道路上に設定された小型人孔部分5箇所(約 $2 \times 2$ m、西から1~5区)である。

調査は工事掘削深度である現地表(T.P. +16.0~18.5m)下1.8~2.2mまでについて、人力・機械を併用して実施した。調査では、工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

北半部は既設管路により搅乱されている。0層は盛土・搅乱、1層は旧耕土である。2・3層は土壤化層で、古墳時代前期の遺物包含層である。2層出土の土師器小形壺(1)を図化した。1は口径と体部最大径がほぼ等しい。調整は磨耗のため不明である。3層は西部に存在する4層から東に落ち込む状況であり、遺構埋土の可能性もある。4層以下は水成層と考えられ、4層上部は土壤化している。2層上面、3層下面で遺構を検出した。

#### 2区

0層は盛土・搅乱、1層は旧耕土である。2層は搅拌された土壤化層で、作土の可能性がある。3層はブロック状を呈しており、調査区全体を含むような遺構埋土の可能性がある。下面では土坑状の窪みが3箇所で見られた。4層以下は水成層と考えられる。4層は河川堆積あるいは洪水砂である。5層以下では顕著な流水状況は見られない。

#### 3区

0層は盛土・搅乱。1・2層は遺構埋土の可能性がある。層位的に時期は近世であろう。3層は搅拌された土壤化層で、作土の可能性がある。以下のB1・B2層はSD311埋土である。4層はいわゆる地山層で、岩盤層である。

#### 4区

搅乱が調査区の大半を占めている。0層は盛土・搅乱、1層は旧耕土である。2層は搅拌された土壤化層で、作土の可能性がある。3層以下は水成層で、砂粒優勢の河川堆積である。

#### 5区

搅乱が深くまで及んでいる。0層は盛土・搅乱。1層以下は水成層で、砂礫の河川堆積である。1層は土壤化が認められる。

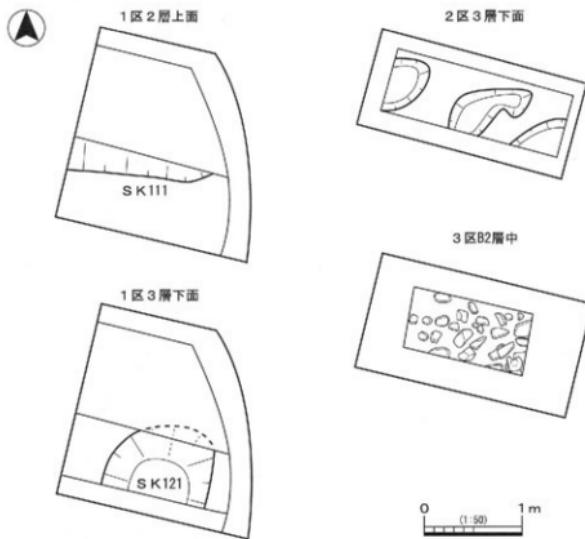
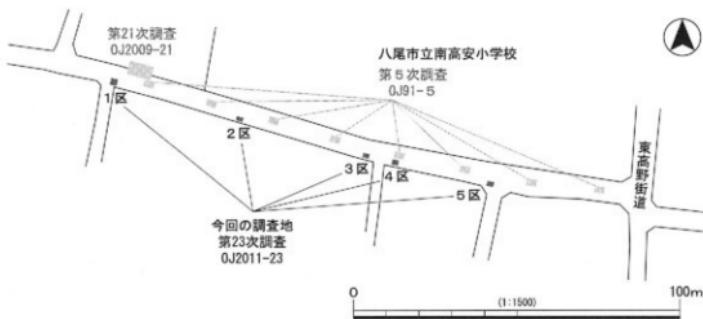
### 3) 検出遺構と出土遺物

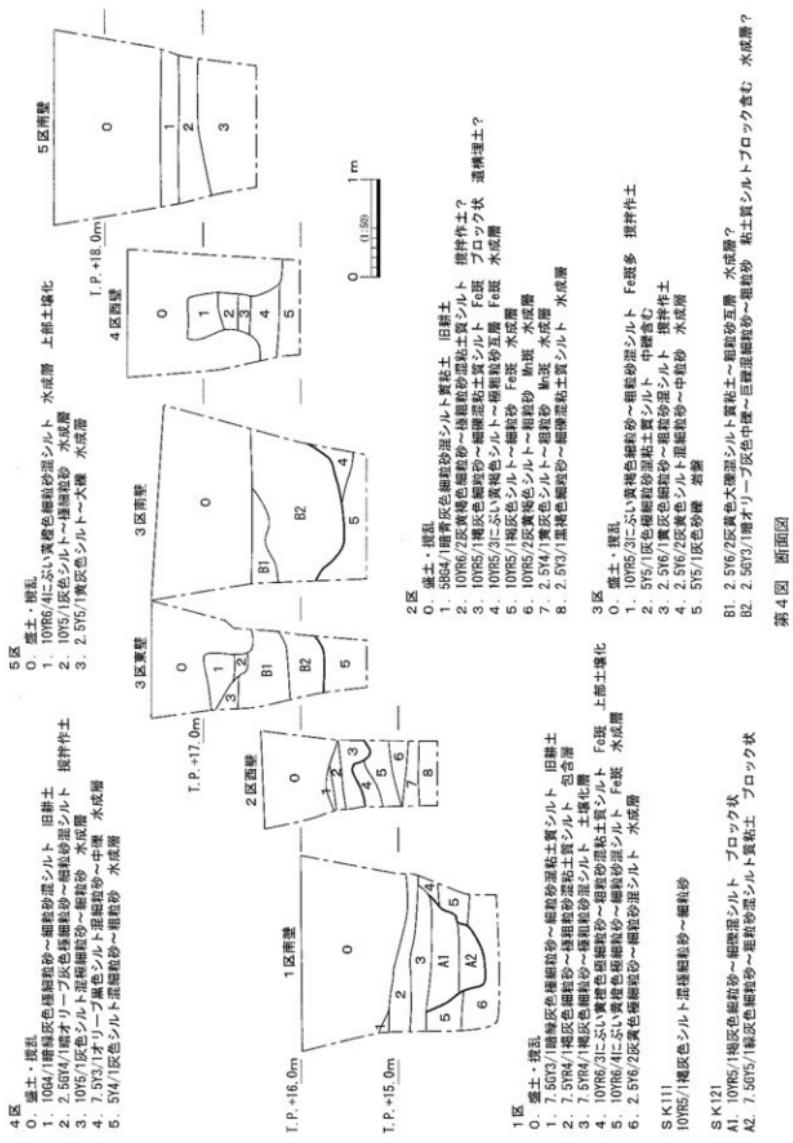
#### S K111

1区2層上面で検出した。北部を削平されており詳細は不明である。検出部分の規模は東西約1.5m・南北35cm・深さ約12cmを測る。埋土はシルト混極細粒砂～細粒砂の單一層である。砂粒優勢の埋土で溝の可能性もある。遺物は出土していない。

#### S K121

1区3層下面で検出した。平面形は円形に近く、直径は1.3m程度と考えられる。断面逆台形を呈し、深さ約70cmを測り、埋土はブロック状の2層(A1・A2層)からなる。遺物は上層から弥生土器片2点が出土したのみである。形状から見て井戸の可能性がある。

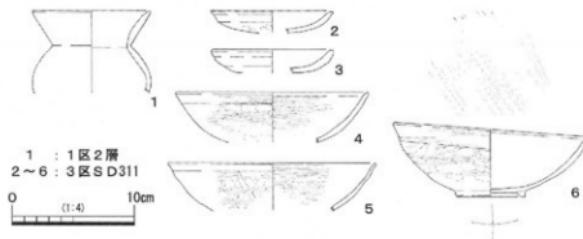




第4図 断面図

## SD311

3区全域を含む遺構で、溝としたが詳細は不明である。埋土はB1・B2層で、西から東に下がる堆積状況である。埋土中には径30cm程度までの礫を密に含んでおり、土石流による堆積とも考えられる。遺物はB1・B2層から12世紀後半に比定される土師器・瓦器・須恵器が出土しており、2～6を図化した。2・3は土師器皿である。2の口縁部には強いヨコナデにより段・沈線が生じている。4～6は瓦器碗である。6の内面調整は不明瞭であるが、いずれも内外面共に比較的密にヘラミガキを施す。6は口径16.0cm・器高5.5cm・高台径5.7cmを測り、見込みには密な平行線状暗文を施す。4がB2層、他はB1層出土。



第5図 出土遺物

## 3.まとめ

西部の1・2区では弥生時代～古墳時代前期の遺構が見られた。遺物量は少量であり集落の中核とは言い難いが、南西部で確認されている当該期の集落域の縁辺に位置する可能性がある。そしてこの集落域は3区以東には広がらないものと考えられる。

3区では周辺で未確認の平安時代末の遺構・遺物を検出した。遺構は溝と考えられるが、現地形をみると3・4区付近が傾斜変化点に当たっており、この地形に由来する水路等の遺構が存在したのかもしれない。

## 参考文献

- ・西村公助1992「IV 恩智遺跡第5次調査(OJ 91-5)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 八尾市文化財調査研究会報告34」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則1992「V 恩智遺跡第6次調査(OJ 91-6)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 八尾市文化財調査研究会報告34」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子1997「I 恩智遺跡第7次調査(OJ 92-7)」「財團法人八尾市文化財調査研究会報告57」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・岡田清一2011「II 恩智遺跡第21次調査(OJ 2009-21)」「財團法人八尾市文化財調査研究会報告132」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2010「II - 7) 恩智遺跡(2009-220)の調査」「八尾市内遺跡平成21年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告61 平成21年度国庫補助事業」八尾市教育委員会



調査地全景(西から)



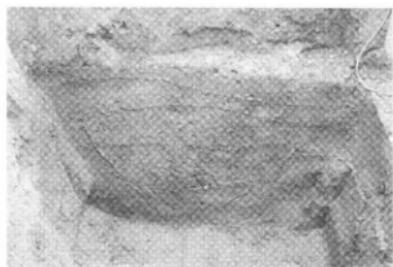
1区機械掘削(南西から)



1区SK111(西から)



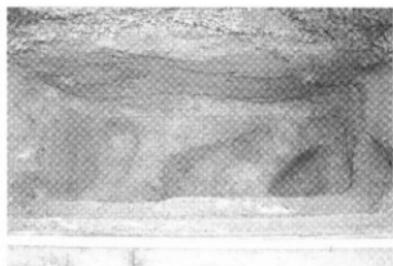
1区SK121(北から)



1区SK121南壁



1区南壁



2区3層下面(北から)



2区西壁



2区調査状況(北西から)



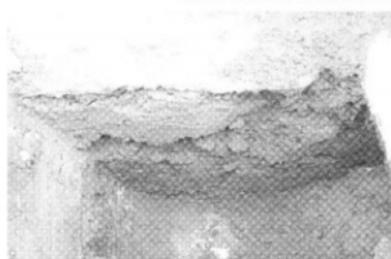
3区SD311(西から)



3区SD311土器出土状況(西から)



3区西壁



3区南壁



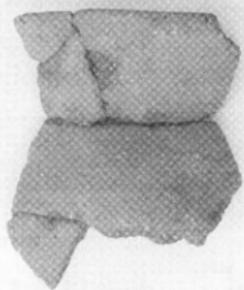
4区西壁



5区(東から)



5区南壁



1



6

V 亀井北遺跡第1次調査 (KMN2010-1)

---

## 例 言

1. 本書は、大阪府大阪市平野区加美南4丁目地内で実施した下水道工事(22-28工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する龜井北遺跡第1次調査(KMN2010-1)の発掘調査業務は、大阪市教育委員会と八尾市教育委員会の協議により、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年2月15日～2月21日(夜間実働4日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約25m<sup>2</sup>である。  
　　遺物実測・トレースー市森千恵子、他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	29
2.調査概要.....	30
1) 調査の方法と経過.....	30
2) 基本層序.....	30
3) 検出遺構と出土遺物.....	30
3.まとめ.....	32

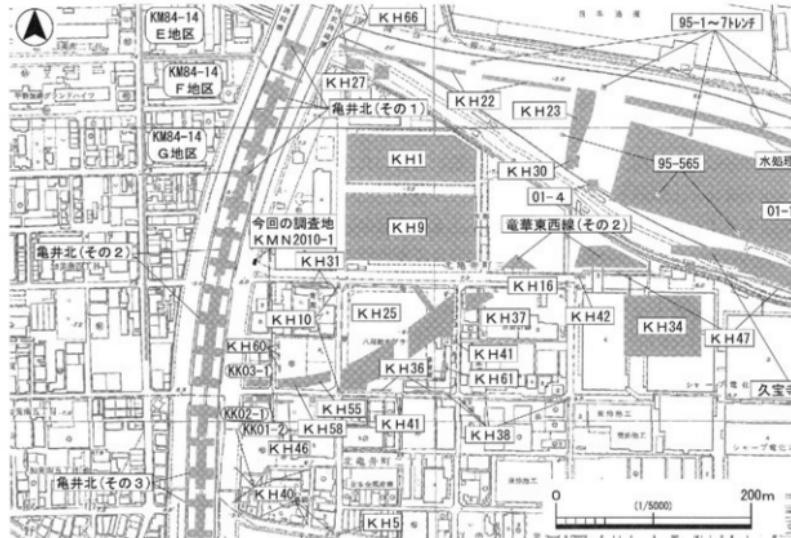
## V 亀井北遺跡第1次調査(KMN2010-1)

### 1. はじめに

亀井北遺跡は、八尾市の西部、大阪市平野区加美南から八尾市北亀井の南北約600mがその範囲とされ、地理的には古大和川水系の長瀬川左岸の沖積地上に位置している。周辺では北～東に久宝寺遺跡・加美遺跡、南に亀井遺跡が隣接する。

当遺跡は近畿自動車道建設に伴う調査において、北の久宝寺遺跡、南の亀井遺跡の調査成果により遺跡の存在が想定され、昭和58(1983)年度の調査により確認されたもので、近畿自動車道建設関連では最後に発見された遺跡である。

昭和59(1984)年～昭和61(1986)年の近畿自動車道建設に伴う調査[亀井北(その1～3)]では、縄文時代後期～近世の遺構が検出されている。特に古墳時代初頭～前期では居住域や墓域が検出され、北の久宝寺遺跡・加美遺跡に続く集落域の広がりが確認されている。また弥生時代では北・南の遺跡群に比して遺構・遺物が希薄であり、当地が低湿で居住域・生産域に適さない環境であったことが確認されている。その後は財団法人大阪市文化財協会(現・大阪文化財研究所)による小規模な試掘調査等が継続的に実施されている程度で、大規模な発掘調査は実施されていない。一方、今回の調査地に東接する久宝寺遺跡域では、当調査研究会が久宝寺遺跡第1・9・25・31次調査等を実施している。古墳時代初頭～前期の居住域や墓域が確認され、第9次調査(KH91-9)検出の前期の前方後方墳は特筆される。



第1図 調査位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は大阪市平野区加美南4丁目地内で実施した。八尾市下水道部により計画された、大阪市と八尾市に跨る下水道工事(22~28工区)に伴う調査で、調査対象となる立坑は大阪市域に含まれるが、大阪市教育委員会と八尾市教育委員会の協議により、当調査研究会が調査を実施することとなった。なお八尾市埋蔵文化財分布図には亀井北遺跡は含まれておらず、今回の調査は当調査研究会が亀井北遺跡内で行った第1次調査(KMN2010-1)である。

調査地は、南北方向に伸びる主要地方道大阪中央環状線の立坑部分で、面積は約25m<sup>2</sup>を測る。今回の立坑は高さ50cm×8段のライナープレート構築によるもので、掘削後は速やかに周囲にライナープレートを設置してゆく必要がある。そのため断面観察は北壁に限定することとし、段毎の掘削に際して北側に畦を残して調査を進めた。

調査は現地表(T.P.+7.55m)下1.0~3.5mについて、機械・人力掘削併用で実施した。また以下の工事掘削深度(T.P.+3.0m)までは西壁北部において地層の確認を実施した。

調査では工事図面記載のGL:T.P.+7.55mを標高の基準とし、平面図は工事図面を使用した。また夜間調査であったため地層名については土色帖は使用していない。

### 2) 基本層序

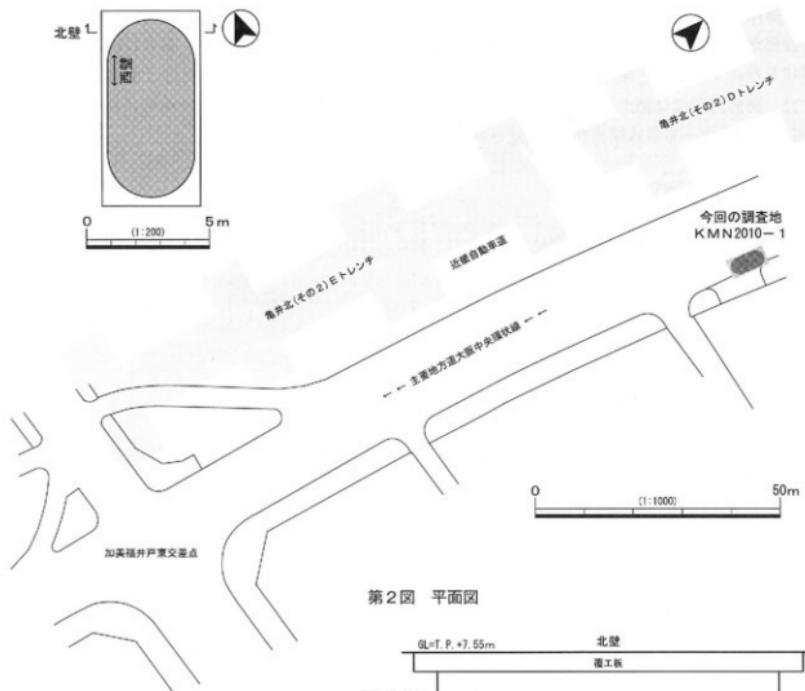
調査着手時には1段目のライナープレート設置が完了しており、現地表下約1.0mからの開始である。0層(T.P.+6.0mまで)は黄褐色系の礫混砂層で、中央環状線敷設に伴う盛土と考えられる。南部の調査によると、T.P.+6.0m以上に古墳時代後期以降に埋没する河川堆積層(亀井北6層)が広がっており、上面(T.P.+6.8m前後)では飛鳥~奈良時代以降の遺構が検出されている。当調査地では当該層及びその時期については削平されているが、当調査地以北の久宝寺遺跡域においても、中央環状線部分の調査では概ねT.P.+6.0mまで盛土層であることを確認している。1層は流水堆積で、先述の河川堆積層と一連の可能性がある。2・3層は湿地性堆積で、3層は当地一帯で普遍的に見られ鍵層となっており、植物遺体をラミナ状に極めて多く含む地層である。3層上面が古墳時代後期、下面が古墳時代中期に比定され、共に水田面が確認されている。4層も湿地性堆積で、炭酸鉄を多く含む。北西部で古墳時代初頭~前期に比定される土器片が比較的まとまって出土した。5層は流水堆積である。6~9層は粘土基調の湿地性堆積で、植物遺体をラミナ状に含む。6層上面は起伏がある。10層は流水堆積である。11層粘土層は上部が土壤化し、上面には細かい起伏が顕著に見られる。踏み込みの可能性がある。12層以下は粘土基調の層相で、12・14層は暗色を呈し土壤化している。西壁北部の15層上面では断面でピットを確認した。

当調査地は[亀井北(その2)Dトレンチ]の東約25mに位置しており、層序の対応が概ね可能であった。11層上面が弥生時代前期、14層上面が縄文時代後期に相当すると考えられる。

### 3) 検出遺構と出土遺物

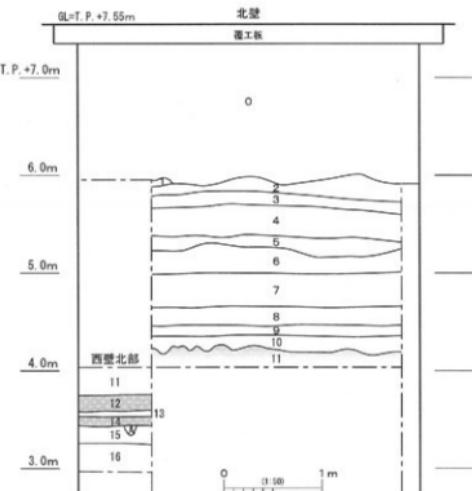
#### 15層上面ピット

西壁北部断面で確認したピットで、規模は南北12cm・深さ10cmを測る。埋土はブロック状の粘土の単一層である。層位的に縄文時代後期の遺構の可能性がある。



第2図 平面図

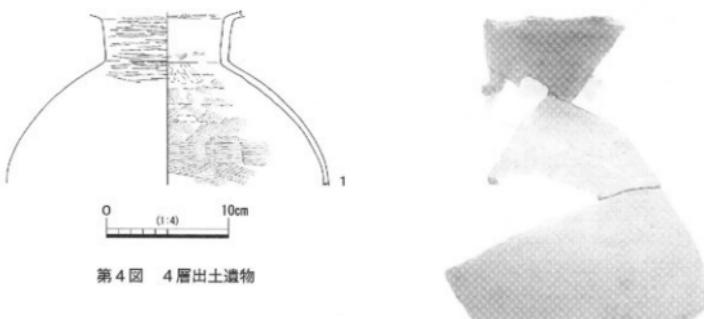
- 0: 盛土  
 1: 淡灰色シルト～細粒砂  
 2: 灰色シルト質粘土  
 植物遺体  
 3: 暗褐色粘土～シルト質粘土互層  
 植物遺体ラミナ  
 4: 灰オーリーブ色粘土 岩鉄鉱  
 5: 灰色シルト～極細粒砂  
 6: 暗オーリーブ灰色粘土互層  
 植物遺体ラミナ  
 7: 灰色～暗オーリーブ灰色粘土  
 植物遺体ラミナ  
 8: オリーブ灰色シルト質粘土～シルト互層  
 植物遺体ラミナ  
 9: 暗オーリーブ灰色粘土  
 10: オリーブ灰色シルト～粗粒砂 互層  
 11: 暗緑灰色粘土 上部土壤化  
 12: オリーブ黒色粘土 土壤化層  
 13: 緑灰色粘土  
 14: オリーブ黒色粘土 土壤化層  
 15: 暗緑灰色粘土  
 16: 暗緑灰色粘土質シルト  
 A: 暗オーリーブ灰色粘土 ブロック状



第3図 断面図

#### 4層出土遺物

器種が特定できるものとして複合口縁壺・甕・楕円高杯・小形器台があり、複合口縁壺(1)を図化した。1は頸部～体部の片で、復元頸部径10.0cmを測る。調整は外面ヘラミガキ、内面ハケで、肩部内面には粘土接合痕が明瞭に残る。時期は、他の出土遺物も含め古墳時代初頭～前期(庄内式期新相～布留式期古相)に比定されよう。



第4図 4層出土遺物

### 3.まとめ

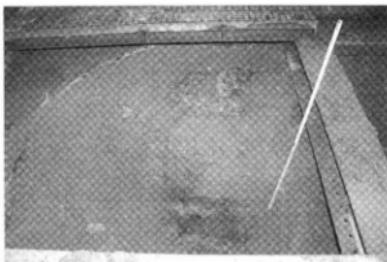
今回の調査では4層から古墳時代初頭～前期の土器が少量出土した。しかし4層は水成層であることから遺物包含層とは言い難い。地層から見て当地の環境は基本的に沼沢地や河川域となっているようで、居住地には適していなかったと考えられ、西の[亀井北(その2)Dトレンチ]検出のウネミゾ状構造が示すように、当該期には生産域が広がっていたのであろう。また断面での確認であるが、15層上面のピットは縄文時代後期の可能性があり、当時の居住域の存在を示唆するものとして重要といえよう。

#### 参考文献

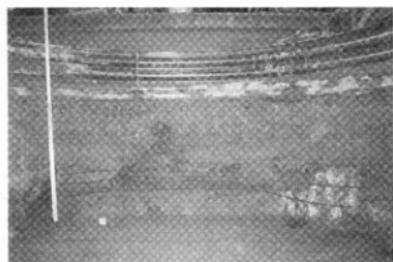
- ・赤木克視・村上年生編1987『河内平野遺跡群の動態Ⅰ』大阪府教育委員会・財團法人大阪文化財センター
- ・小野久隆・服部文章1986『亀井北(その1)』財團法人大阪文化財センター
- ・奥 和之・山上 弘1986『亀井北(その2)』財團法人大阪文化財センター
- ・竹原伸次・大槻康宏1986『亀井北(その3)』財團法人大阪文化財センター
- ・辻 美紀2004『亀井北遺跡発掘調査報告』財團法人八尾市文化財協会
- ・原田昌則1993「II 久宝寺遺跡第1次調査(K H84-1)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告(財)八尾市文化財調査研究会報告37」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子1992「13. 久宝寺遺跡第9次調査(K H91-9)」「平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一・原田昌則2006「I 久宝寺第25次調査(K H98-25)」「財團法人八尾市文化財調査研究会報告88」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2006「II 久宝寺遺跡第31次調査(K H99-31)」「財團法人八尾市文化財調査研究会報告88」財團法人八尾市文化財調査研究会



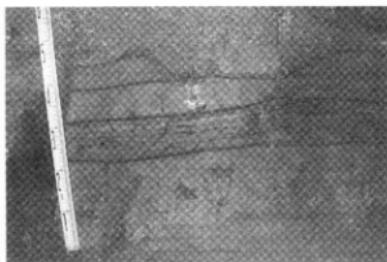
調査地(北から)



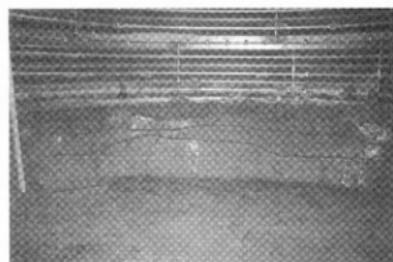
0層堆積状況南部(東から)



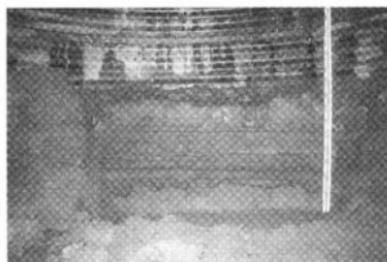
0~4層北壁



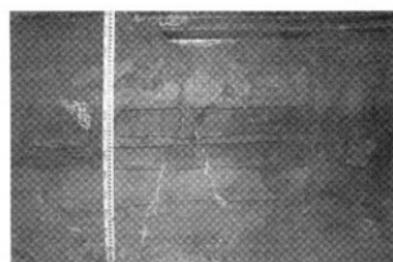
同左細部



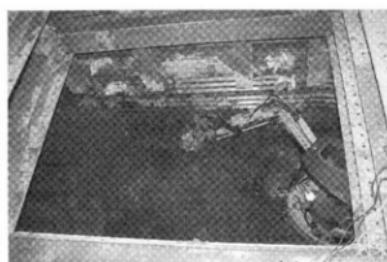
4~7層北壁



7~11層北壁



11~16層西壁



11~16層掘削状況(東から)



## VI 木の本遺跡第18次調査（S K2010-18）

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市南木の本二丁目地内で実施した下水道工事(21-30工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第18次調査(S K2010-18)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成22年5月17日～6月5日(外業実働4日)に、坪田真一・高萩千秋を調査担当者として実施した。調査面積は約10.3m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、梶本潤二・芝崎和美・田島宣子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記を行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　　遺物実測－永井律子、遺物トレース－市森千恵子、他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	35
2.調査概要.....	36
1)調査の方法と経過.....	36
2)基本層序.....	36
3)検出遺構と出土遺物.....	36
3.まとめ.....	38

## VI 木の本遺跡第18次調査(S K 2010-18)

### 1. はじめに

木の本遺跡は八尾市南西部に位置し、八尾空港とその西側一帯、現在の行政区画では木の本1～3、南木の本2～9、空港1丁目がその範囲とされている。地理的には河内平野の南西部、旧大和川水系の平野川左岸の沖積地上に位置し、東側に田井中遺跡・老原遺跡、西～南側には八尾南遺跡・太田遺跡が隣接する他、北側には太子堂遺跡・植松遺跡・植松南遺跡といった平野川流域に展開する遺跡群が存在する。

当遺跡発見の契機は、昭和56(1981)年に八尾市教育委員会が南木の本4丁目で実施した試掘調査で、弥生時代中期前半～古墳時代後期の遺物包含層が確認されたことによる。そして続く発掘調査では弥生時代中期前半、古墳時代前期・中期の遺構が検出された。昭和57・58(1982・1983)年度には、八尾空港内の整備事業に伴い、当研究会が第1次調査を実施し、平安時代の条里水田の広がりが確認された。その後も八尾空港北側の昭和沢の川・平野川の河川改修工事に伴う調査や、下水道工事等に伴う小規模な調査が大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当研究会により継続的に実施され、当遺跡は弥生時代前期以降の複合遺跡であることが確認されている。

今回の調査地が隣接する平野川改修工事に伴っては、平成8～11年度に大阪府教育委員会による発掘調査が実施されており、古墳時代初頭～近世の集落遺構が確認されている。



第5図 出土遺物

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南木の本二丁目地内で実施した下水道工事(21~30工区)に伴う調査で、当調査研究会が木の本遺跡内で行った第18次調査(S K2010-18)である。

調査地は、南北方向に伸びる主要地方道旧大阪中央環状線線上の人孔部分3箇所(北から1~3区)で、総面積は約10.3m<sup>2</sup>を測る。

調査は現地表(T.P.+10.6~11.3m)下2.9~3.3mまでについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事使用のベンチマークを標高の基準とした。1・2区がYKBM.2:T.P.+10.435m、3区がYKBM.1:T.P.+11.308mである。

### 2) 基本層序

0層は盛土。1層は旧耕土で、1・2区でのみ見られ、3区では0層が深くまで及んでいるため存在しない。以下の層序については地区毎に記載する。

#### 1区

101~103層は搅拌が認められ作土であろう。時期は中世~近世と思われる。104~106層は粘土~シルト質粘土、107層はシルト~極細粒砂からなる水成層。

#### 2区

201・202層は搅拌が認められ作土であろう。時期は中世~近世と考えられる。203・204層の粘土は水成層と思われる。205層は暗色を呈する土壤化層で、古墳時代の遺物包含層である。

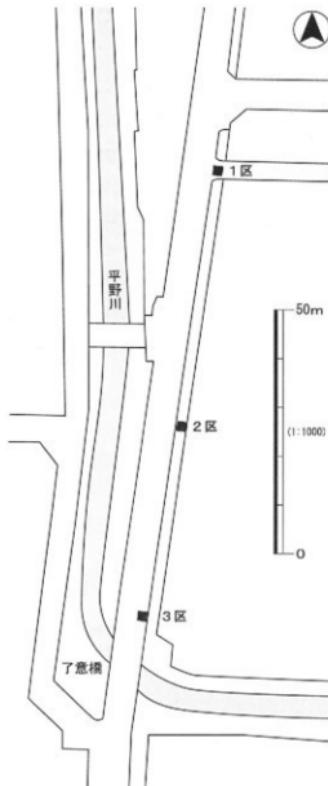
#### 3区

301~305層は搅拌が認められ作土であろう。305層は顯著なブロック状で淘汰不良である。306層も作土の可能性がある。307層の粘土は粘性が強く沼沢地状の地層である。

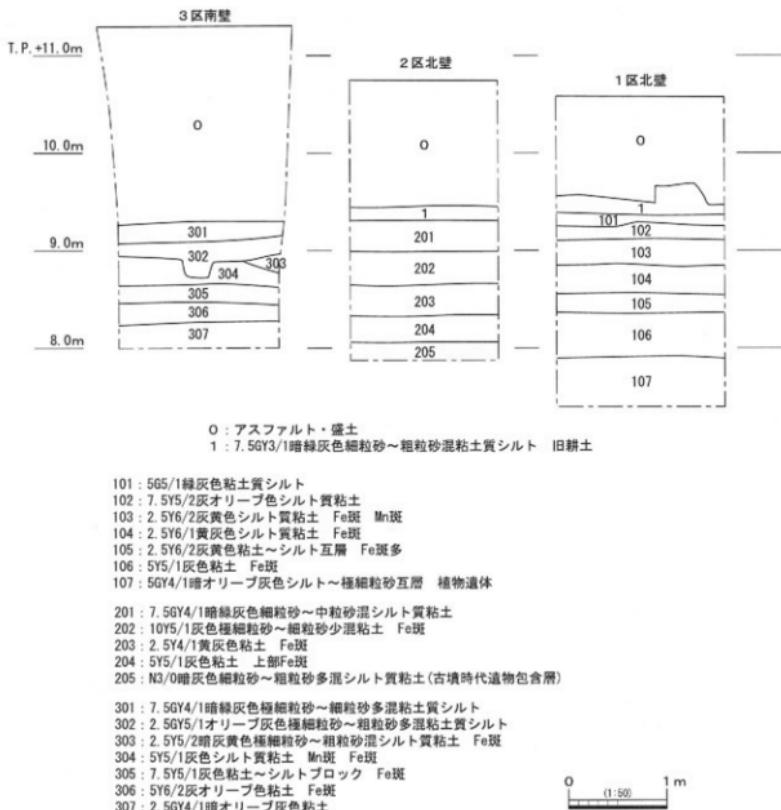
### 3) 検出遺構と出土遺物

#### N R101

1区南半104層上面(T.P.+8.8m)で北肩を確認した東西方向の自然河川である。面的には捉えられなかったが、埋土は10Y6/1灰色細粒砂~粗粒砂で、南に落ち込む状況であった。当河川は西側調査地(横田明・岩瀬透1999)検出のN R-001に統く自然河川と考えられ、平安時代後期に比定されている。



第2図 調査区位置図



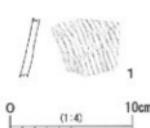
第3図 断面図

## 2区205層

外面に平行タタキを施した土師器片  
(1)が出土しており、古墳時代中期～後期に比定される壺あるいは瓶と思われ、韓式系土器の可能性もある。他には古墳時代初頭～前期に比定される古式土師器片が多く出土した。

## 3区305層

平瓦片が1点出土しているが、磨耗が著しく詳細は不明である。



第4図 2区205層出土遺物

写真1 出土遺物 (1)

### 3.まとめ

調査では1区で平安時代後期頃に埋没する自然河川(NR101)、2区で古墳時代中期～後期の遺物包含層を検出した。

2区包含層には古墳時代初頭～前期の土器が多く含まれており、南部で確認されている当該期の集落域が当地にまで及んでいると考えられる。3区では掘削深度が及んでいないのであろう。

### 参考文献

- ・藤沢真依・他1999『木の本遺跡発掘調査概要・Ⅲ－平野川改修工事に伴う発掘調査－』大阪府教育委員会
- ・横田明・岩瀬透1999『木の本遺跡発掘調査概要・Ⅳ－1級河川平野川改修工事に伴う発掘調査－』大阪府教育委員会
- ・藤田道子2001『木の本遺跡発掘調査概要・Ⅴ－1級河川平野川改修工事に伴う発掘調査－』大阪府教育委員会



調査地(北から)



2区機械掘削(西から)



1区北壁上段



2区北壁



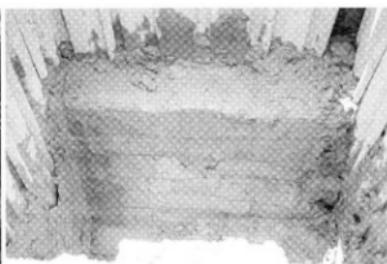
1区北壁中段



3区機械掘削(南東から)



1区北壁下段



3区北壁



VII 木の本遺跡第19次調査 (S K2010-19)

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市南木の本五・六丁目地内で実施した下水道工事(22-39工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第19次調査(S K2010-19)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成22年10月6日～10月19日(外業実働2日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約16m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、梶本潤二・田島宣子・村井俊子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　　目　　次

1.はじめに.....	41
2.調査概要.....	42
1) 調査の方法と経過.....	42
2) 基本層序と出土遺物.....	42
3.まとめ.....	42

## VII 木の本遺跡第19次調査(S K2010-19)

### 1. はじめに

木の本遺跡は八尾市南西部に位置し、八尾空港とその西側一帯、現在の行政区画では木の本1～3、南木の本2～9、空港1丁目がその範囲とされている。地理的には河内平野の南西部、旧大和川水系の平野川左岸の沖積地上に位置し、東側に田井中遺跡・老原遺跡、西～南側には八尾南遺跡・太田遺跡が隣接する他、北側には太子堂遺跡・植松遺跡・植松南遺跡といった平野川流域に展開する遺跡群が存在する。

当遺跡では大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当研究会により継続的に発掘調査が実施され、弥生時代前期以降の複合遺跡であることが確認されている。

周辺での調査成果を概観すると、今回の調査地北西部で実施した第4次調査(S K91-4)では古墳時代中期の土坑や溝、古墳時代後期以降の自然河川、第9次調査(S K2002-9)では、平安時代中期以前と考えられる遺構面や、古墳時代中期の自然河川等を検出している。また北部の第12次調査(S K2004-12)では古墳時代中期中葉の遺物包含層が検出されたが、遺物は少量であることから、第4・9次等で確認されている当該期の集落域の縁辺部にあたる可能性が指摘されている。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南木の本五・六丁目地内で実施した下水道工事(22-39工区)に伴う調査で、当調査研究会が木の本遺跡内で行った第19次調査(S K2010-19)である。

調査地は人孔部分4箇所(約2.0×2.0m:西から1~4区)で、南東-北西方向に流下する空港放水路の南側に沿う道路上に位置する。総面積は約16m<sup>2</sup>を測る。

調査は現地表(T.P.+10.6m)下2.1~2.5mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事使用のベンチマークを標高の基準とした。1・2区がKBM.B1:T.P.+10.665m、3・4区がKBM.B2:T.P.+10.678mである。

### 2) 基本層序と出土遺物

上層部は調査地全域にわたって、北側の空港放水路護岸の裏込め(OC層)や、南側の擁壁に伴う盛土(OB層)が厚く堆積し、3・4区の北半部ではOC層が掘削深度以下に及んでいた。

#### 1区

1~3層はブロック状を呈する層相で、4層が搅拌された淘汰不良な作土の可能性がある。4層は流水堆積である。5層は搅拌された作土で、近世の堺摺鉢と考えられる陶器細片が1点出土した。

#### 2区

1・2層は搅拌された作土。3層は静水性の水成層、4層は湿地性の水成層である。

#### 3区

1・2層は搅拌された作土、3層は静水性の水成層、4層は湿地性の水成層で、レベル的にはやや低くなっているが、2区と共通する層相である。

#### 4区

1層は搅拌された作土、2・3層もやや搅拌されているよう作土の可能性がある。

## 3. まとめ

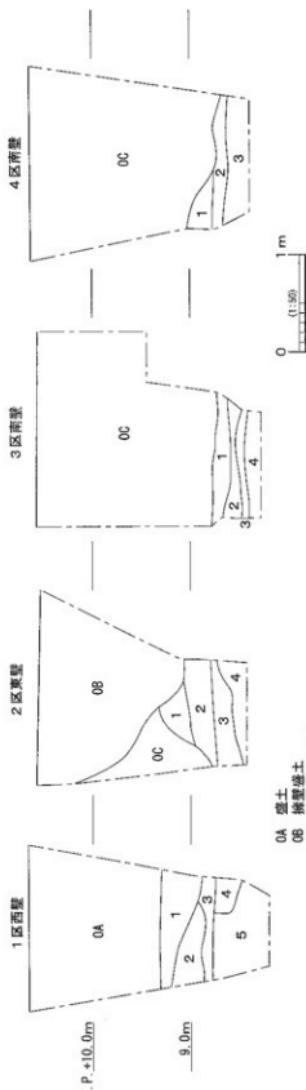
調査では、出土遺物により1区5層が近世の作土であることを確認したが、それ以外には出土遺物もなく、2~4区で見られた作土や水成層の時期は不明である。レベル的には近世頃の可能性が高い。西部の第9次調査(その1)では、T.P.+8.1~8.2mで平安時代中頃以前と考えられる遺構面を確認し、溝や落ち込みを検出しているが、今回の調査では掘削深度が当該層に達していないと考えられる。

## 参考文献

- ・西村公助1991「VI 木の本遺跡第4次調査(S K91-4)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告32』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子2004「III 木の本遺跡第9次調査(S K2002-9)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告78』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則2005「V 木の本遺跡第12次調査(S K2004-12)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告82』財団法人八尾市文化財調査研究会



第2図 調査区位置図



- 43 -

- 1区  
 1 2.515/2暗灰色褐色砂～粗粒砂シルト質粘土 ブロック状  
 2 2.516/1黄灰色粘土 ブロック状細粒砂～粗粒砂  
 3 2.516/2灰黄色細粒砂～粗粒砂混粘土 ブロック状  
 4 7.5R5/3(以下)褐色粘土 ブロック状細粒砂～粗粒砂 淡水堆積  
 5 10015/1褐色細粒砂～粗粒砂 ブロック状粘土 植物付土(近世陶器)
- 2区  
 1 7.5G3/1暗灰色細粒砂粘土 植物付土  
 2 2.516/1黄灰色褐色砂堆粘土 Fe班 植物付土  
 3 2.5G5/1オリーブ色粘土シルト層 水成層  
 4 2.5G4/1暗オリーブ色粘土 湿地性水成層
- 3区  
 1 5G3/1暗青灰色シルト質粘土 植物付土  
 2 2.516/2灰黄色細粒砂～粗粒砂シルト質粘土 Fe班 植物付土  
 3 2.514/1黄灰色シルト質粘土シルト互層 水成層  
 4 2.513/1黒褐色粘土～粘土質シルト 湿地性水成層
- 4区  
 1 2.516/2灰黄色細粒砂～粗粒砂シルト質粘土 Fe班 植物付土  
 2 5G1/1灰色シルト混粘土 Fe班 植物付土  
 3 2.5G4/1暗オリーブ色シルト質粘土 植物付土?

第3図 断面図



調査地全景(北西から)



1区西壁



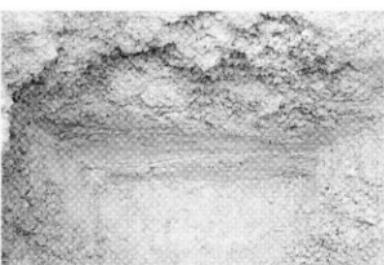
2区(南東から)



2区東壁



3区(北西から)



3区南壁



4区掘削状況(西から)



4区南壁

VIII 木の本遺跡第20次調査 (S K 2010-20)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市南木の本三丁目地内で実施した下水道工事(22-38工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第20次調査(S K2010-20)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成22年11月12日～12月6日(外業実働5日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約20m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・芝崎和美・竹田貴子・田島宣子・永井律子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記を行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
遺物実測－永井律子、他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	45
2.調査概要.....	46
1) 調査の方法と経過.....	46
2) 基本層序と出土遺物.....	46
3.まとめ.....	46

## VII 木の本遺跡第20次調査(S K2010-20)

### 1. はじめに

木の本遺跡は八尾市南西部に位置し、八尾空港とその西側一帯、現在の行政区画では木の本1～3丁目、南木の本2～9丁目、空港1丁目がその範囲とされている。地理的には河内平野の南西部、旧大和川水系の平野川左岸の沖積地上に位置し、東側に田井中遺跡・老原遺跡、西～南側には八尾南遺跡・太田遺跡が隣接する他、北側には太子堂遺跡・植松遺跡・植松南遺跡といった平野川流域に展開する遺跡群が存在する。

当遺跡では大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当研究会により発掘調査が継続的に実施され、弥生時代前期以降の複合遺跡であることが確認されている。

今回の調査地は遺跡範囲の北端にある。南東部で平野川改修工事に伴って大阪府教育委員会により実施された調査では、古墳時代前期・中期の遺構・遺物包含層が検出されているが、これらは北部では希薄になることが確認された。そしてその北で実施した第16次調査(S K2009-16)では、河川堆積や湿地性堆積が連続し、基本的に居住地には適していなかったといえるが、古墳時代前期の落込みからは遺存状態が非常に良好な銅鏡が1点出土しており、南部の当該期の集落域との関連が注目される。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南木の本三丁目地内で実施した下水道工事(22-38工区)に伴う調査で、当調査研究会が木の本遺跡内で行った第20次調査(S K2010-20)である。

調査地は、東西方向の道路上に約40m間隔で設置される人孔部分5箇所(約2.0×2.0m:西から1~5区)で、総面積は約20m<sup>2</sup>を測る。

調査は現地表(T.P.+10.3m)下2.8~3.3mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事使用のベンチマークを標高の基準とした。1区がKBM.3:T.P.11.049m、2~4区がKBM.2:T.P.+10.182m、5区がKBM.1:T.P.+10.934mである。

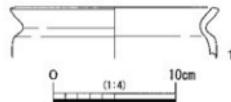
### 2) 基本層序と出土遺物

調査地全域にわたって大まかに基本層序を設定した。

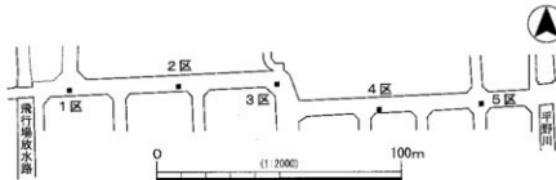
0層は盛土。1層はグライ化した旧水田耕作土で、3区以外のT.P.+9.2m前後で見られた。2層は3区のT.P.+9.3~9.7mで見られたブロック状の地層である。3区付近には近年まで南北方向に里道が通っていたことから、その盛土の可能性があり、3区で1層が見られない状況とも合致する。3層は搅拌の著しい耕作土で、グライ化した3A層としていない3B層に分けたが、最大で4枚に分層される。出土遺物から時期は中世~近世に比定される。4層は4区のT.P.+9.1mで見られた砂層で、一時的な洪水砂の可能性がある。5層は2・5区のT.P.+8.7~8.9mで見られた淘汰不良でブロック状の耕作土である。6層は1・2・5区のT.P.+8.7m前後で見られた砂層で、洪水砂の可能性がある。7層は1・3区のT.P.+8.5~8.7mで見られたブロック状の耕作土である。古代~中世の土師器・瓦器を少量含んでおり、時期は中世頃に比定される。1は3区出土の土師器甕の小片である。内面は全面黒色を呈し、やや磨耗しているため調整は不明瞭である。形態的に平安時代中期頃に比定される。8層は1区のT.P.+8.5m以下に見られ、1区南部を占める。ブロック状の層相で大規模な遺構あるいは落ち込み等を埋めた地層の可能性がある。9層以下(T.P.+8.5m前後以下)は水成層である。9層は4・5区で見られた粘土質シルト、10層は1~3区で見られた粘土~細粒砂の互層である。11層は沼沢地を示す炭酸鉄を多く含む粘土層である。12・13層は3・5区で見られた細粒砂~粗粒砂層で、河川堆積である。5区では東が高くなる状況が見られ、さらに東に流心が求められよう。14層は1・2区で見られ、植物遺体をラミナ状に多く含む粘土~シルト質粘土の互層である。15層以下は1区の一部でのみ確認した。15・17層については暗色を呈する層であり、土壊化している可能性がある。

### 3. まとめ

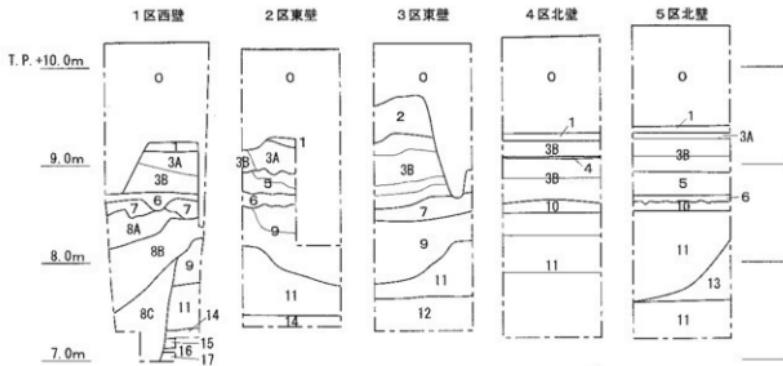
調査では全域で中世~近世の耕作土を確認し、当地が中世以降生産域となっていたことが判明した。3区7層からは平安時代中期頃の土器が出土していることから、生産域としての土地利用はこの頃まで遡る可能性はあるが、平安時代以前の当地は基本的に沼沢地の様相で、生活には適していなかったと考えられる。



第2図 3区7層出土遺物



第3図 調査区位置図



1. 7.5GY4/1暗緑色細粒砂混シルト質粘土 旧耕土
2. 10YR6/3Cにぶい黄褐色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 ブロック状
- 3A. 7.5GY6/1緑黄色細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 Mn斑 接拌作土
- 3B. 2.5Y7/2灰黄色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 接拌作土
4. 10Y5/1灰色極細粒砂～粗粒砂 水成層
5. 2.5GY5/1オリーブ灰色細粒砂ブロック混シルト質粘土 Fe斑 ブロック状作土
6. 10YR6/2にぶい黄褐色シルト～中粒砂互層 Fe斑多 水成層
7. 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂～中粒砂ブロック混シルト質粘土 Fe斑 ブロック状作土
- 8A. 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 ブロック状
- 8B. 5Y5/1灰色細粒砂ブロック混シルト質粘土 ブロック状
- 8C. 5Y5/1灰色粘土ブロック混シルト質粘土 ブロック状
9. 7.5GY4/1暗緑色粘土～細粒砂互層 水成層
10. 2.5Y7/2灰青色粘土質シルト～Fe斑多 水成層
11. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 炭酸鉄 水成層
12. 7.5Y6/1灰色細粒砂～粗粒砂 水成層
13. 7.5Y6/1灰色細粒砂～中粒砂 水成層
14. 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土～シルト質粘土互層 植物遺体極多 水成層
15. 2.5GY3/1暗オリーブ灰色極細粒砂混シルト質粘土 水成層(土壤化層?)
16. 7.5GY4/1暗緑色シルト質粘土 水成層
17. 2.5GY3/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 水成層(土壤化層?)

第4図 断面図

## 参考文献

- ・岩瀬 透、横田 明1999「木の本遺跡発掘調査概要・IV - 1級河川平野川改修工事に伴う発掘調査 -」大阪府教育委員会
- ・坪田真一2011「Ⅲ 木の本遺跡第16次調査(S K2009-16)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告132』財團法人八尾市文化財調査研究会



1～3区調査地（東から）



1区西壁（T.P.+8.1mまで）



2区調査状況（西から）



1区西壁（T.P.+7.0mまで）



2区東壁（T.P.+8.2mまで）



2区東壁（T.P.+7.4mまで）



3区東壁（T.P.+8.4mまで）



3区東壁（T.P.+7.3mまで）



4・5区調査地(東から)



4区北壁(T.P.+8.5mまで)



4区機械掘削(南西から)



4区北壁(T.P.+7.8mまで)



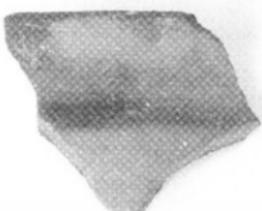
5区(南西から)



5区北壁(T.P.+8.5mまで)



5区北壁(T.P.+7.2mまで)



1

出土遺物



IX 木の本遺跡第22次調査（S K2010-22）

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市南木の本9丁目地内で実施した下水道工事(22-40工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第22次調査(S K2010-22)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。なお調査は平成22・23年度にまたがったため、平成22年度をその1、平成23年度をその2として実施した。
1. 現地調査は、その1が平成22年11月30日・12月3日(外業実働2日)に、その2が平成23年4月13・14日(外業実働2日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約16m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・伊藤静江・梶本潤二・竹田貴子・永井律子・村井俊子・山内千恵子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　文　目　次

1.はじめに.....	51
2.調査概要.....	52
1) 調査の方法と経過.....	52
2) 基本層序と出土遺物.....	52
3.まとめ.....	52

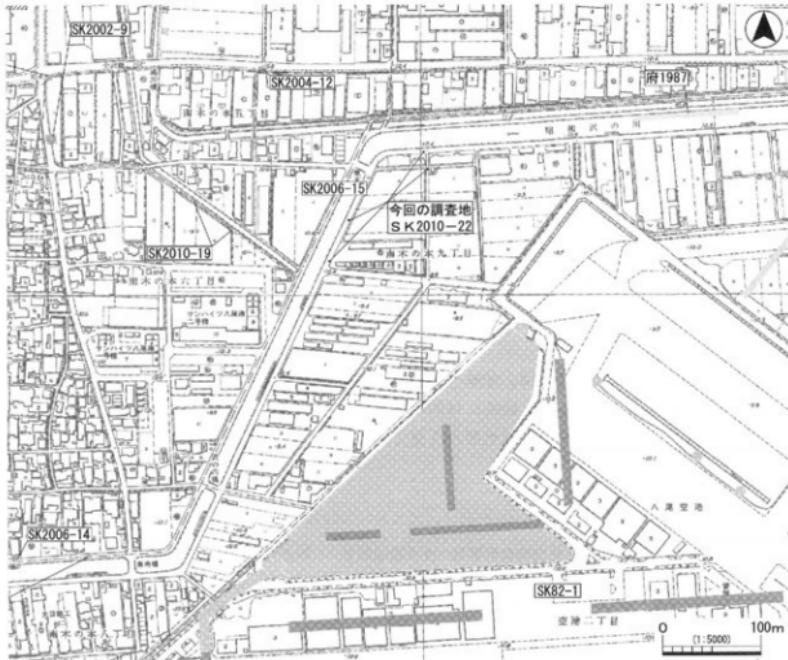
## IX 木の本遺跡第22次調査(S K2010-22)

### 1. はじめに

木の本遺跡は八尾市南西部に位置し、八尾空港とその西側一帯、現在の行政区画では木の本1～3丁目、南木の本2～9丁目、空港1丁目がその範囲とされている。地理的には河内平野の南西部、旧大和川水系の平野川左岸の沖積地上に位置し、東側に田井中遺跡・老原遺跡、西～南側には八尾南遺跡・太田遺跡が隣接する他、北側には太子堂遺跡・植松遺跡・植松南遺跡といった平野川流域に展開する遺跡群が存在する。

当遺跡では大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当研究会により発掘調査が継続的に実施され、弥生時代前期以降の複合遺跡であることが確認されている。

今回の調査地は遺跡範囲の中央付近にあたる。周辺では今回の調査地の中間地点で第15次調査(S K2006-15)を実施している他、西部では本書IVの第19次調査(S K2010-19)、また南の八尾空港内では第1次調査(S K82-1)がある。これらの調査では平安時代以降の耕作土が検出されており、当地一帯に生産域が広がっていたことが確認されている。



第1図 調査位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南木の本9丁目地内で実施した下水道工事(22~40工区)に伴う調査で、当調査研究会が木の本遺跡内で行った第22次調査(S.K. 2010-22)である。

調査地は、八尾空港北側、昭和沢の川沿いの道路上に設置される人孔部分(約2.0×2.0m)4箇所(1~4区)で、総面積は約16m<sup>2</sup>を測る。平成22年度に1・2区、平成23年度に3・4区の調査を実施した。

調査は現地表(T.P.+11.1~11.7m)下2.5~3.1mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事使用のベンチマークを標高の基準とした。1・2区がKBM.4:T.P. 10.748m、3・4区がKBM.2:T.P.+10.323mである。

### 2) 基本層序と出土遺物

全調査区では同様の地層が認められた。0層は盛土。以下はT.P.+8.7~9.1m以上に攪拌された作土層が連続と続く状況で、最大で8層(2区)が確認できた。以下は水成層で、1区9・10層、2区10層、3区11層、4区8層は炭酸鉄を多く含み、沼沢地状の堆積が広がっている。また3区13層、4区9層は植物遺体をラミナ状に多く含む層相である。

これらの地層中には遺物は皆無であった。

### 3.まとめ

調査では南・西の調査地と同様、全域で耕作土を確認し、当地が生産域となっていたことが判明した。遺物は出土しておらず時期的には明確ではないが、周辺の調査成果から見て平安時代以降と考えられる。それ以前の当地は地層から見て基本的に沼沢地の様相で、生活には適していないかったと考えられる。

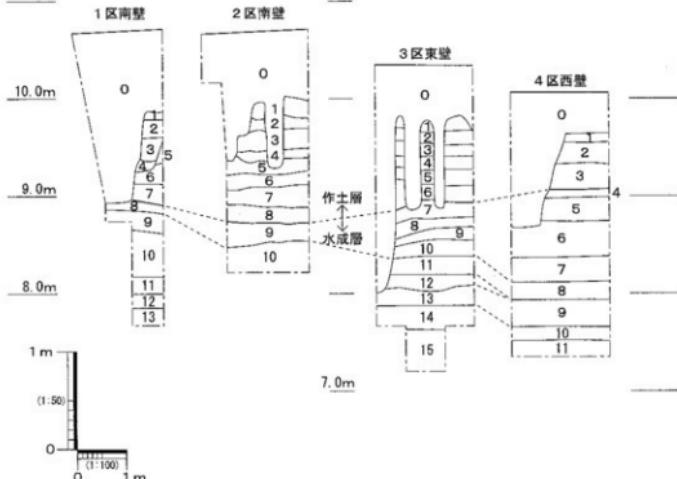
#### 参考文献

- ・原田昌則1983「木の本遺跡－八尾空港整備事業に伴う発掘調査－」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告4』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・荒川和哉2008「Ⅲ 木の本遺跡(第15次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告112』財団法人八尾市文化財調査研究会



第2図 調査区位置図

T.P.+11.0m



## 1区

0. 盛土

1. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト 搅拌作土
2. 10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルト 搅拌作土
3. 10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルト～シルト  
搅拌作土
4. 2.5Y5/4黄灰色粘土 搅拌作土
5. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト質粘土 搅拌作土
6. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 Fe斑 搅拌作土
7. 2.5Y5/1黄灰色粘土 上部Fe斑 搅拌作土？
8. 2.5Y7/3浅黄色シルト～中粒砂互層 水成層
9. 7.5G7/1暗緑灰色粘土 腹酸鉄 水成層
10. 7.5G3/1オリーブ黒色粘土 腹酸鉄 水成層
11. 2.5G7/3暗オリーブ灰色シルト質粘土 水成層
12. 7.5G3/1オリーブ黒色粘土 植物遺体多 水成層
13. 2.5G3/1暗オリーブ灰色粘土 植物遺体 水成層

## 3区

0. 盛土・搅拌

1. 7.5GY6/1緑灰色シルト混シルト質粘土 旧耕土
2. 10G5/1緑灰色極細粒砂混粘土質シルト 搅拌作土
3. 5G6G/1青灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 搅拌作土
4. 2.5Y7/2灰黄色粘土質シルト Mn斑 Fe斑 搅拌作土
5. 2.5Y6/2灰黄色シルト質粘土 Mn斑多 Fe斑 搅拌作土
6. 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 搅拌作土
7. 2.5Y7/3浅黄色シルト～極細粒砂互層 Fe斑 水成層
8. 2.5Y6/1黄灰色粘土～シルト互層 Fe斑 水成層
9. 5Y5/1灰色極細粒砂混シルト質粘土 水成層？
10. 2.5GY5/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 水成層？
11. 5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト 腹酸鉄 水成層
12. 5G04/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 水成層
13. 5GY5/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 ラミナ状に植物遺体 水成層
14. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 水成層
15. 7.5GY6/1緑灰色粘土 水成層

## 2区

0. 盛土

1. 10YR6/3にぶい黄橙色極細粒砂～細粒砂混粘土質シルト  
搅拌作土
2. 10YR5/2灰黃褐色細粒砂～中粒砂多混粘土質シルト  
搅拌作土
3. 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 Fe斑  
搅拌作土
4. 2.5Y7/3浅黄色極細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土  
Fe斑 搅拌作土
5. 2.5Y6/2にぶい黄色極細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 Mn斑  
搅拌作土
6. 10YR6/2灰黃褐色シルト質粘土 Fe斑 Mn斑 搅拌作土
7. 2.5Y6/1黄灰色シルト質粘土 Fe斑 搅拌作土
8. 2.5Y6/1黄灰色粘土 Fe斑 搅拌作土
9. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘土 水成層
10. 7.5GY4/1暗緑灰色粘土 腹酸鉄 水成層

## 4区

0. 盛土

1. 7.5GY6/1緑灰色シルト混シルト質粘土 旧耕土
2. 2.5Y6/2灰黄色シルト質粘土～シルト Fe斑 搅拌作土
3. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト質粘土 Mn斑 搅拌作土
4. 10YR7/6明黄褐色シルト混シルト質粘土 Fe斑多 水成層
5. 2.5Y7/2灰黄色シルト質粘土 Fe斑 水成層
6. 5Y6/1灰色粘土 水成層
7. 7.5Y6/1灰色シルト質粘土 水成層
8. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト 植物遺体 腹酸鉄  
水成層
9. 2.5Y4/1黄灰色粘土～シルト質粘土互層  
ラミナ状に植物遺体 水成層
10. 10G6/1緑灰色粘土 水成層
11. 2.5GY3/1暗オリーブ灰色粘土 水成層

第3図 断面図



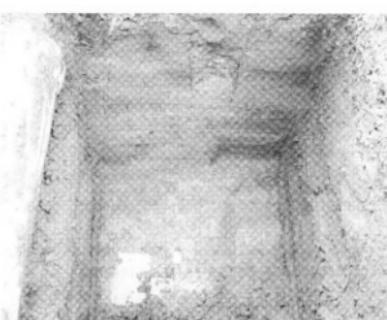
調査地(南から)



1区機械掘削(南から)



1区南壁



2区(北から)



1区南壁下部



2区南壁



3区調査地(東から)



4区機械掘削(東から)



3区東壁上部



4区西壁上部



3区東壁下部



4区西壁下部



X 太子堂遺跡第14次調査 (T S 2011-14)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市南太子堂2丁目地内で実施した下水道工事(23-32工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する太子堂遺跡第14次調査(T S 2011-14)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年9月1日～9月7日(外業実働3日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約12m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、梶本潤二・芝崎和美・竹田貴子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
遺物実測－伊藤静江、その他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	57
2.調査概要.....	58
1) 調査の方法と経過.....	58
2) 基本層序と出土遺物.....	58
3) 検出遺構と出土遺物.....	58
3.まとめ.....	58

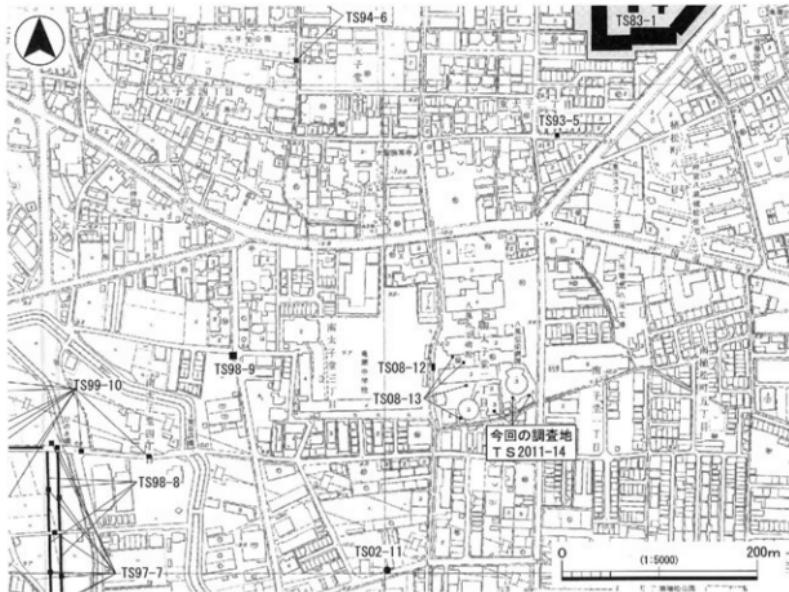
## X 太子堂遺跡第14次調査(T S 2011-14)

### 1. はじめに

太子堂遺跡は、八尾市の南西部に位置する古墳時代前期～近世の複合遺跡で、地理的には、遺跡内を東から西に横断する旧大和川の主流であった平野川の自然堤防上に立地している。現在の行政区画では太子堂3～5丁目、東太子2丁目、南太子堂1～6丁目がその範囲となっている。当遺跡は、北～西で跡部遺跡、東で植松遺跡に隣接する他、周辺では西に龜井遺跡、東に植松南遺跡、南に木の本遺跡が存在している。

当遺跡は昭和58年3月、八尾市教育委員会が東太子2丁目で実施した試掘調査において、古墳～奈良時代の遺物包含層が確認されたことにより認識された遺跡である。そして同年6～10月に同地点で当調査研究会による第1次調査が行われ、奈良時代の集落遺構を中心に、古墳時代中期～中世の遺構・遺物を検出している。

今回の調査地は遺跡東部に位置する。周辺の調査では、第9次調査で平安時代後期以降に埋没する古平野川を検出しておらず、その南部の第7・8・10次調査で平安～鎌倉時代の居住域、第11次調査で同時期の生産域を確認している。また西に近接する第13次調査では北部の調査区で奈良～平安時代の溝を検出している。



第1図 調査位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南太子堂2丁目地内で実施した下水道工事(23-32工区)に伴う調査で、当調査研究会が太子堂遺跡内で行った第14次調査(T.S.2011-14)である。

調査地は八尾市立病院跡地南部にあたり、近年新設された東西道路上の東半に設置される人孔部分3箇所(約2.0×2.0m:西から1~3区)で、総面積は約12m<sup>2</sup>を測る。

調査は現地表(T.P.+10.2~10.3m)下2.2~2.5mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では1区北に設置された工事使用的のベンチマーク(T.P.+10.280m)を標高の基準とした。

### 2) 基本層序と出土遺物

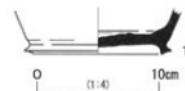
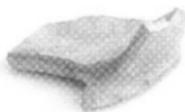
0層は盛土・搅乱で、1区では市立病院建物による搅乱がG.L.-1.8mまで及んでいた。1層は旧耕土である。2~6層は中世頃~近世の作土である。6層からは奈良時代頃の土師器片が出土しており、3区では瓦器・椀・細片が含まれていた。7層は1区でのみ見られた細粒砂~極粗粒砂で、河川堆積、あるいは洪水砂と考えられる。第13次調査4区N.R.401に相当する可能性がある。遺物は出土していない。8層は搅拌が見られ、Mn班を多く含む層相で作土と考えられる。奈良時代頃の土器を少量含む。9~11層もやや搅拌が認められ作土の可能性があるが詳細は不明である。11層から奈良時代頃の土師器片が少量出土している。12層のシルト質粘土は湿地性堆積である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

調査では遺構は検出されなかった。出土遺物も少量であったが、3区8層下部出土の1を図化した。1は須恵器壺類の底部で、高台径12.0cmを測る。奈良時代頃に比定される。

## 3.まとめ

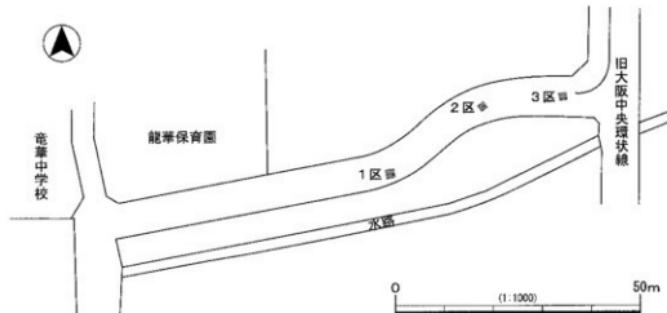
当地は古平野川の南に展開する集落域に含まれると考えられるが、居住域を示す遺構や遺物包含層は見られなかった。奈良時代~中世の土器を少量検出したが、いずれも作土中からの出土であり、当地は奈良時代以降生産域となっていると考えられる。



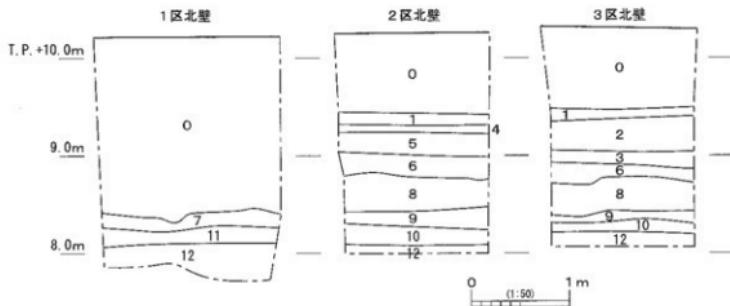
第2図 3区8層出土遺物

## 参考文献

- 岡田清一・井西貴子1993「I 第1次調査(TS83-1)」「太子堂遺跡(第1次調査・第2次調査報告書)」財団法人八尾市文化財調査研究会報告36」財団法人八尾市文化財調査研究会
- 西村公助2000「V太子堂遺跡第7次調査(TS97-7)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告66」財団法人八尾市文化財調査研究会
- 高萩千秋2000「VI太子堂遺跡第8次調査(TS98-8)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告66」財団法人八尾市文化財調査研究会
- 成海佳子2000「X太子堂遺跡第9次調査(TS98-9)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告65」財団法人八尾市文化財調査研究会



第3図 調査区位置図



0. 整土  
 1. 2.5GY3/1暗オリーブ灰色極細粒砂～細粒砂混シルト 旧耕土  
 2. 7.5GY5/1緑灰色極細粒砂～中粒砂多湿シルト 搅拌作土  
 3. 5G15/1オリーブ灰色極細粒砂多湿粘土質シルト 搅拌作土  
 4. 5GY5/1オリーブ灰色極細粒砂～細粒砂ブロック混シルト質粘土 搅拌作土  
 5. 10YR6/3(赤い)黄褐色極細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 搅拌作土  
 6. 5Y6/1灰色シルト混粘土質粘土 Fe斑 搅拌作土  
 7. 7.5Y6/1灰色シルト混細粒砂～極粗粒砂 混水砂  
 8. 2.5Y5/2暗灰青色極細粒砂混シルト質粘土 Mn斑多 搅拌作土?  
 9. 2.5T6/2暗黄色極細粒砂～細粒砂混粘土質シルト Fe斑多 搅拌作土?  
 10. 2.5Y6/2暗黄色シルト質粘土 Fe斑多 搅拌作土?  
 11. 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂～細粒砂ブロック混シルト質粘土 やや搅拌 作土?  
 12. 5GY4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 濡地性堆積

第4図 断面図

- ・森本めぐみ2001「IX太子堂遺跡第10次調査(TS99-10)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告67』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助2005「III太子堂遺跡第11次調査(TS2002-11)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告85』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2009「II太子堂遺跡第13次調査(TS2008-13)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告128』財団法人八尾市文化財調査研究会



調査地全景(西から)



1区機械掘削(北西から)



1区7層上面(南から)



1区北壁



2区8層上面(南から)



2区北壁



3区調査状況(南から)



3区北壁

XI 西郡廃寺第8次調査（N K T 2010-8）

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市泉町二丁目地内で実施した公共下水道工事(22-2工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する西都廃寺第8次調査(NKT2010-8)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成22年9月7日～9月18日(外業実働4日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約20m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・梶本潤二・芝崎和美・田島宣子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
遺物実測－伊藤静江、遺物トレース－市森千恵子、他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	61
2.調査概要.....	62
1) 調査の方法と経過.....	62
2) 基本層序と出土遺物.....	62
3) 検出遺構と出土遺物.....	62
3.まとめ.....	64

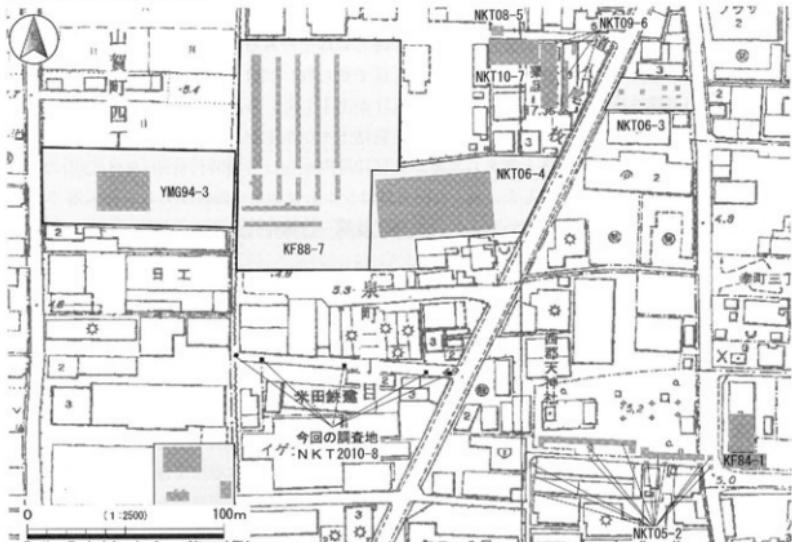
# XI 西郡廃寺第8次調査(NKT2010-8)

## 1.はじめに

西郡廃寺は、八尾市北西部の泉町1～3丁目、幸町1・3・4・6丁目に跨る東西約0.4km・南北約0.5kmの範囲に広がっている。地理的には旧大和川水系の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた低位沖積地上に位置する。周辺の遺跡としては、西郡廃寺を含む遺跡として西郡遺跡があり、西に山賀遺跡、南に萱振遺跡が隣接している。西郡廃寺は飛鳥時代中期創建とされ、泉町2丁目に鎮座する西郡天神社の境内にある塔心礎の存在から、同神社北側に寺域が想定されている。これまでの発掘調査や採集資料で、創建期の軒丸瓦や、奈良時代～中世の軒瓦が確認されているが、寺院関連の遺構や寺域を推定する遺構等の検出には至っていない。

当遺跡範囲は、当初の遺跡名が萱振遺跡(萱振A遺跡)や西郡廃寺とされていたが、その後、萱振遺跡の北部が西郡廃寺遺跡となった。さらに西郡遺跡と改称すると共に、範囲内北部に西郡廃寺の範囲が設定され、現在に至っている。こうした経緯から、現在西郡廃寺とされている範囲であるが、調査時の名称が萱振遺跡である地点も多く存在する。

当遺跡はこれまでの発掘調査から、弥生時代後期以降の複合遺跡であることが確認されている。今回の調査地の北部では、当調査研究会が第4次調査(NKT2006-4)や、萱振遺跡第7次調査(KF88-7)を実施しており、古墳時代初頭～前期、古墳時代後期～飛鳥時代初頭、古代～中近世の遺構を確認している。



第1図 調査位置図

## 2. 調査概要

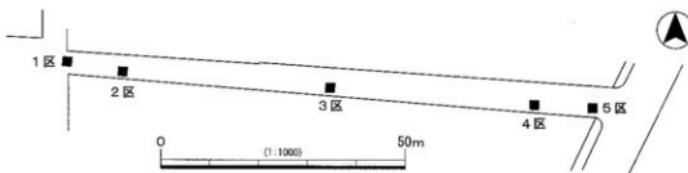
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市泉町2丁目地内で実施された公共下水工事(22-2工区)に伴う調査で、当調査研究会が西郡廃寺内で行った第8次調査(NKT2010-8)である。

調査地は東西方向の道路上に設定された人孔部分5箇所(約2.0×2.0m、西から1～5区)で、総面積は約20m<sup>2</sup>を測る。

調査は工事掘削深度である現地表(T.P.+5.2～5.6m)下3.0m前後までについて、人力・機械を併用して掘削し、遺構・遺物の検出に勤めた。なお1区については夜間調査となった。

調査で使用した標高値の基準は、工事使用的KBM. 1(T.P.+5.213m)である。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序と出土遺物

調査地全体を通して0～9層を基本層序とした。

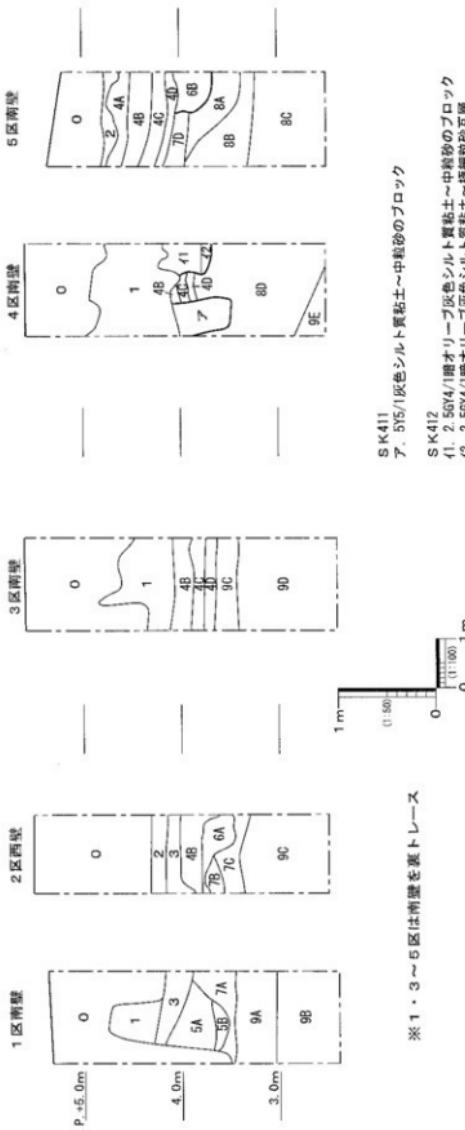
0層は盛土。1層もブロック状で、盛土・整地層であろう。2層は旧耕土で、2・5区で見られた。3・4層はMn斑やFe斑を多く含み、搅拌の著しい作土である。4層からは古代以降の土師器、須恵器、瓦器椀の細片が出土した。5層は1区で見られ、ブロック状の層相で、作土あるいは耕作関連の遺構の可能性もある。5B層から平瓦片が出土した。6層は2・5区で見られたシルト～粗粒砂からなる流水層である。7層はシルト質粘土～シルトからなる水成層で、2・5区ではやや搅拌され土壤化していると考えられる。2区7B層内からは古墳時代前期(布留式期)の甕体部片が土圧で潰れた状況で出土した。4・5区8層はシルト質粘土～細礫からなる流水層で、3・4区間に西肩を有する河川と考えられる。弥生時代後期～古墳時代初頭の土器片が出土した。9層は粘土を基調とする湿地性堆積である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

4区4B層上面(T.P.+4.2m)で土坑2基(SK1・2)、5区7D層上面(T.P.+4.1m)で自然河川1条(NR1)を検出した。

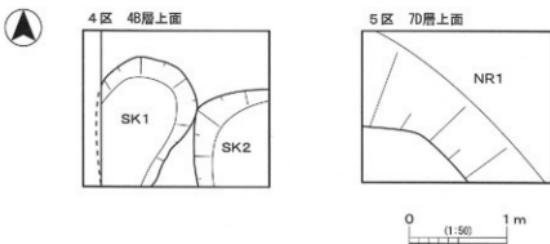
#### SK1

検出部分の平面形は梢円形の一部で、規模は南北1.3m以上、東西約1.0mを測る。断面形状は方形に近く、深さ約60cmを測る。埋土はブロック状の單一層で、基本層序1層に類似する。遺物は近世頃の土師器摺鉢片の他、須恵器片、平瓦片が出土した。1は凸面格子タタキ・凹面布目の平瓦である。東部の調査地でも出土しており、西郡廃寺関連と考えられる。



0. 塗土 56Y3/1暗オリーブ灰色シルト質粘土～中粒砂互層
1. 56Y3/1暗オリーブ灰色シルト質粘土～中粒砂互層
  2. 7.5Y/1灰色細粒砂～粗粒砂少泥シルト質粘土 旧耕土
  3. 10YR6/1様灰色細粒砂～粗粒砂少泥シルト質粘土 作土 Mn斑
  4. 10YR6/4にぶい黄色細粒砂～極粗粒砂多泥シルト 作土 Mn斑
  - 4B. 2.5Y/1黄色細粒砂～極粗粒砂多泥シルト 作土 Mn斑
  - 4D. 10YR6/1暗灰色細粒砂～中粒砂多泥粘土質シルト 作土 Fe斑
  - 4F. 2.5Y/1黄色細粒砂～粗粒砂少泥シルト 作土 Mn斑
  - 5A. 2.5Y/1黄色細粒砂～極粗粒砂少泥シルト 作土 Fe斑
  - 6A. 2.5Y/1黄色細粒砂～粗粒砂少泥シルト 作土 Fe斑 ブロック状
  - 7C. 2.5Y/1黄色細粒砂～粗粒砂少泥シルト 作土 Fe斑
  - 8A. 2.5Y/1黄色細粒砂～粗粒砂少泥シルト 作土 Fe斑
  - 8B. 2.5Y/1黄色細粒砂～粗粒砂少泥シルト 作土 Fe斑
  - 8C. 10YR5/2暗オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂少泥 (～5cm) 互層
  - 8D. 5Y6/1灰色細粒砂～粗粒砂少泥
  - 8E. 2.5Y/1黄色細粒砂～粗粒砂少泥
  - 8F. 2.5Y/1黄色細粒砂～粗粒砂少泥
  - 9C. 10YR6/1暗オリーブ灰色細粒砂互層 植物遺体
  - 9G. 10YR6/1暗オリーブ灰色シルト質粘土～中粒砂互層
  - 9H. 10YR6/3にぶい黄色細粒砂～粗粒砂少泥
  - 9B. 10YR6/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 湿地性粘土
  - 9E. 56Y3/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 湿地性粘土
- S K411  
ア. 5Y6/1暗オリーブ灰色シルト質粘土～中粒砂のブロック  
S K412  
1. 2.5Y/4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土～中粒砂のブロック  
2. 2.5Y/4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土～極粗粒砂互層
- 7A. 2.5Y/1黄灰色シルト Fe斑 水成層  
7B. 10YR6/4にぶい黄色細粒砂少泥粘土質シルト質粘土 Fe斑 土壌化層  
7C. 2.5Y/1黄色細粒砂シルト Fe斑 水成層  
7D. 2.5Y/1黄色細粒砂～中粒砂少泥シルト質粘土 Fe斑 土壌化層  
8A. 5Y6/1暗オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂少泥

第3図 断面図



第4図 平面図

### SK2

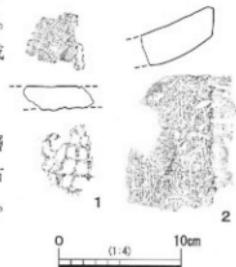
検出部分の平面形は方形の角部で、規模は南北1.0m以上、東西約0.8m以上を測る。断面形状は方形に近く、深さ約55cmを測る。埋土は上層がブロック状、底部付近が粘土→極細粒砂からなる水成層である。時期不明の土師器片、平瓦片が出土している。

### NR1

北西-南東方向の河川の南西肩を検出した。埋土は基本層序6B層にあたり、下位の河川(7・8層)の最終的な流路と考えられる。古墳時代初頭(庄内式期)の土器片の他、サスカイト片が出土している。

### 1区5B層出土遺物

2は平瓦で、調整は凸面縄目タタキ、凹面布目である。



第5図 出土遺物

### 3.まとめ

東部検出の自然河川(8層)は、3・4区間に西肩を有し北流するもので、北部の第4次調査地で確認されている古墳時代前期の自然河川に繋がるものと考えられる。2区では当該期の土壤化層が見られたが、土壤化は弱いものであり、第4次調査や、萱振遺跡第7次調査で検出されている集落域の縁辺にあたる可能性がある。

西郡廃寺関連では遺構は見られなかつたが、1区では創建瓦の可能性がある格子タタキの平瓦が1点出土した。

### 参考文献

- 原田昌則1996「II 萱振遺跡第7次調査(K F88-7)」『萱振遺跡 財團法人八尾市文化財調査研究会報告52』財團法人八尾市文化財調査研究会
- 河村恵理2007「II 西郡廃寺遺跡第2次調査(N K T2005-2)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告95』財團法人八尾市文化財調査研究会
- 西村公助2007「22. 西郡廃寺第4次調査(N K T2006-4)」『平成18年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』財團法人八尾市文化財調査研究会
- 原田昌則2007「I 萱振遺跡第16次調査(K F94-16)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告95』財團法人八尾市文化財調査研究会



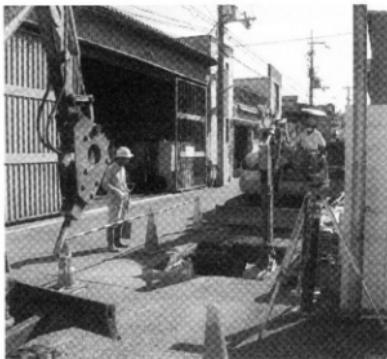
調査地全景(東から)



1区(西から)



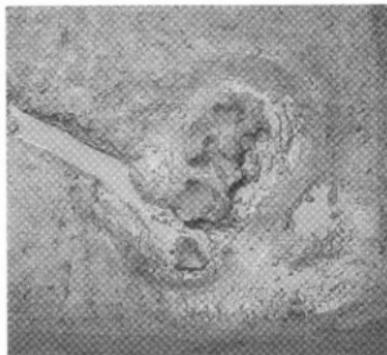
1区南壁



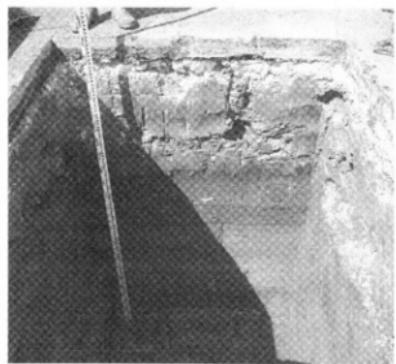
2区調査地(南西から)



2区5層上面(西から)



2区5層内土器出土状況(上が北)



2区西壁



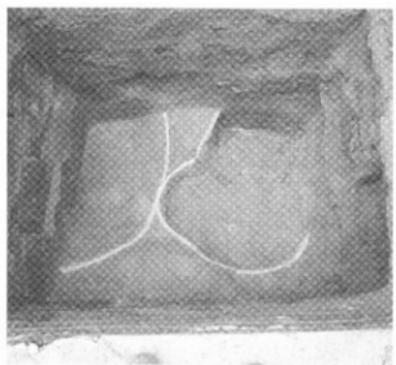
2区下層掘削(南から)



3区(北から)



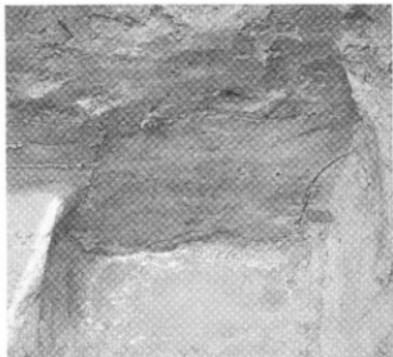
3区南壁



4区第1面(北から)



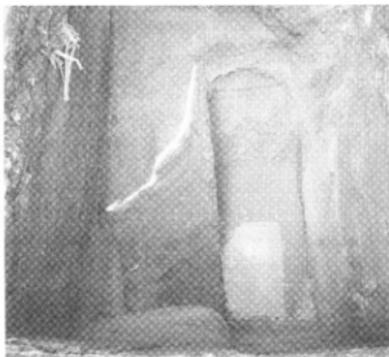
4区南壁



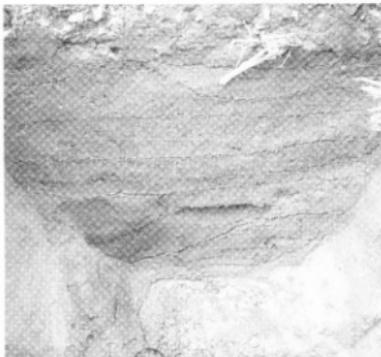
4区SK1南壁



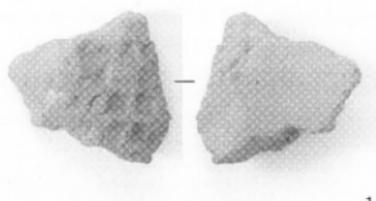
4区SK2南壁



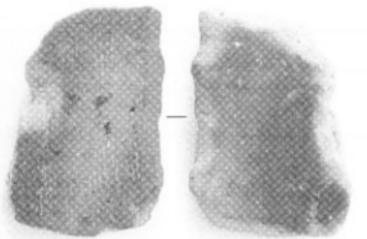
5区調査状況(西から)



5区南壁



1



2



XII 弓削遺跡第12次調査 (Y G E 2010-12)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市志紀町南三丁目地内で実施した下水道工事(22-33工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する弓削遺跡第12次調査(Y G E 2010-12)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成22年12月16日～2月10日(外業実働5日)に、坪田真一・岡田清一を調査担当者として実施した。調査面積は約20m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・芝崎和美・竹田貴子・永井律子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	69
2.調査概要.....	70
1) 調査の方法と経過.....	70
2) 基本層序.....	70
3.まとめ.....	70

## XII 弓削遺跡第12次調査(Y G E 2010-12)

### 1. はじめに

弓削遺跡は八尾市南東部に位置しており、現在の行政区画では、八尾市志紀町南2丁目・4丁目、弓削町3丁目・弓削町南3丁目の一部、東西約0.5km・南北約0.7kmの範囲がその範囲となっている。

地理的には、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵、西を上町台地、北を淀川に囲まれた河内平野の南部、旧大和川の主流であった長瀬川左岸の沖積地上に位置しており、遺跡範囲内の現地表の標高は、T.P. +12.8~15.0mを測る。当遺跡の周辺には、長瀬川を挟んで北東側には東弓削遺跡が、北西側には志紀遺跡・田井中遺跡・木の本遺跡があり、南側には本郷遺跡(柏原市)が隣接する。当遺跡内では、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会により、また本郷遺跡内では、柏原市教育委員会により発掘調査が行われており、弥生時代前期以降の複合遺跡であることが確認されている。

今回の調査地は遺跡南東部に当たり、周辺では当調査研究会が第5・8~10次調査を実施している他、八尾市教育委員会による遺構確認調査が行われている。南西部で実施した第8次調査(Y G E 2008-8)・第10次調査(Y G E 2009-10)では、弥生時代中期~後期、古墳時代、奈良時代、中世の遺物が検出されている他、古墳時代以前の自然河川の存在が確認されている。



第1図 調査位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市志紀町南3丁目地内で実施した下水道工事(22-33工区)に伴う調査で、当調査研究会が弓削遺跡内で行った第12次調査(Y G E 2010-12)である。

調査地は道路上に設置される人孔部分3箇所、管路部分2箇所(約2.0×2.0m:北西から1~5区)で、総面積は約20m<sup>2</sup>を測る。

調査は現地表(T.P.+13.7~14.4m)下1.5~2.2mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事使用のベンチマーク(KBM.3:T.P.+14.186m)を標高の基準とした。

### 2) 基本層序

0層は盛土・搅乱。以下、1~3区で1~5層、4・5区で6~10層を確認した。

1~5層は大まかに見てシルト~粗粒砂の互層状を呈する河川堆積である。4層は比較的大きな粘土質シルトブロックを多く含む砂層であるが、このブロック層は上流で削平されたものと捉えられ、急激な流れが窺える。

6~10層も河川堆積で、8層にラミナが認められる他は、氾濫性の堆積である。

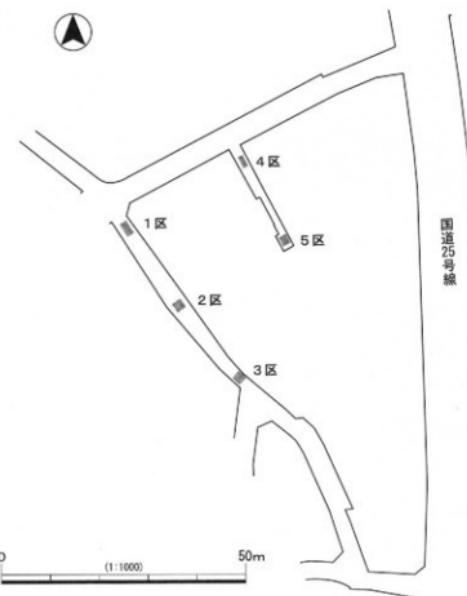
## 3.まとめ

確認した砂層の堆積から、調査地は河川域に当たっており、一帯は居住域には適していなかったと考えられる。河川の時期については出土遺物が皆無であり不明である。現在の平野川は、長瀬川に平行して北流した後、調査地の南部で西に方向を変えて直進している。この方向転換は人為的なもので、1~3区の位置する道路が方向を変える以前の流路を示していると思われ、確認した河川堆積や氾濫性堆積は平野川の旧流路に起因すると考えられる。

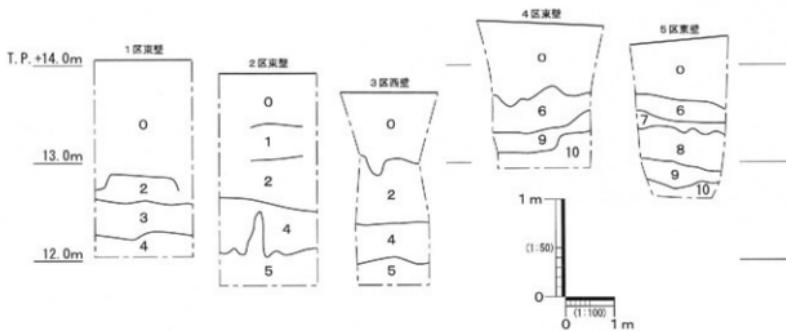
なお西部で確認されている弥生時代~古墳時代の地層については、調査深度がそれに達していない可能性が高い。

### 参考文献

- ・西村公助2004「X 弓削遺跡第5次調査(Y G E 2003-5)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告78』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・木村健明2010「VI 弓削遺跡第8次調査(Y G E 2008-8)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告129』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・木村健明2008「弓削遺跡第9次調査 財団法人八尾市文化財調査研究会報告118」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子2011「IX 弓削遺跡第10次調査(Y G E 2009-10)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告132』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・安原後史1990「第3章 本郷遺跡」「高井田遺跡・本郷遺跡 -1989年度公共事業に伴う-」柏原市文化財概報1989-IV 柏原市教育委員会



第2図 平面図



## 〔1～3区〕

- 0. 塵土・擾乱
- 1. 10YR6/3にぶい黄橙色中疊混極細粒砂～中粒砂互層
- 2. 2.5Y7/3浅黄色シルト～細粒砂互層
- 3. 10YR4/1褐色灰色中疊少混シルト～細粒砂
- 4. 10YR4/2灰黃褐色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルトブロックを含む  
5Gy6/1オリーブ灰色極細粒砂～粗粒砂
- 5. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト～細疊互層

## 〔4・5区〕

- 0. 塘土・擾乱
- 6. 7.5YR3/3暗褐色砂疊(～5mm)混シルト
- 7. 7.5YR5/1褐灰色砂疊(～2mm)混シルト
- 8. 2.5Y7/2灰黃褐色極細粒砂～細粒砂
- 9. 2.5Y4/1黄灰色シルト
- 10. 10YR5/2灰黃褐色シルト～極細粒砂

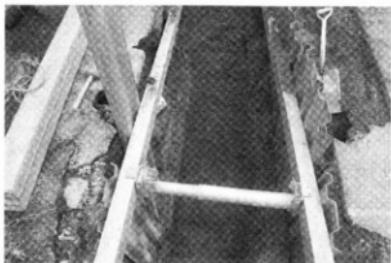
第3図 断面図



調査地(北から)



1区掘削状況(北から)



1区全景(北から)



1区東壁



2区掘削状況(北から)



2区全景(西から)



2区東壁



3区掘削状況(西から)



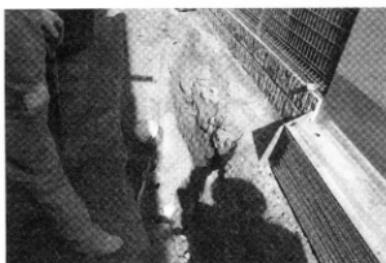
3区掘削状況(北から)



3区全景(南から)



3区西壁



4区掘削状況(南から)



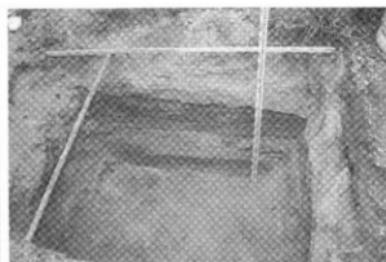
4区調査状況(南から)



4区東壁



5区掘削状況(西から)



5区西壁



XIII 弓削遺跡第13次調査 (Y G E 2010-13)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市志紀町南4丁目地内で実施した下水道工事(22-114工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する弓削遺跡第13次調査(Y G E 2010-13)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年2月22日～3月29日(外業実働4日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約16m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・市森千恵子・梶本潤二・竹田貴子・永井律子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　　遺物実測・トレースー市森、他ー坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	75
2.調査概要.....	76
1) 調査の方法と経過.....	76
2) 基本層序と出土遺物.....	76
3) 検出遺構と出土遺物.....	78
3.まとめ.....	79

## XIII 弓削遺跡第13次調査(Y G E 2010-13)

### 1. はじめに

弓削遺跡は八尾市南東部に位置する弥生時代前期以降の複合遺跡で、現在の行政区画では、八尾市志紀町南2丁目・4丁目、弓削町3丁目・弓削町南3丁目の一部、東西約0.5km・南北約0.7kmの範囲がその範囲となっている。

地理的には、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵、西を上町台地、北を淀川に囲まれた河内平野の南部、旧大和川の主流であった長瀬川左岸の沖積地上に位置しており、遺跡範囲内の現地表の標高は、T.P.+12.8~15.0mを測る。当遺跡の周辺には、長瀬川を挟んで北東側には東弓削遺跡が、北西側には志紀遺跡・田井中遺跡・木の本遺跡があり、南側には本郷遺跡(柏原市)が隣接する。

今回の調査地は遺跡南部中央に当たり、周辺では当調査研究会が第4・5・8・10次調査を実施している他、八尾市教育委員会による遺構確認調査が行われている。北部では第4次調査(Y G E 2002-4)で弥生時代後期の遺構が検出され、市教委(98-380)では古墳時代初頭の土器の他、古墳時代後期の円筒埴輪が出土している。同時期の埴輪は西部の市教委(99-429)においても家形埴輪が出土しており、周辺に後期古墳の存在が想定される。南部では、第8次調査(Y G E 2008-8)・第10次調査(Y G E 2009-10)で、弥生時代中期~後期、古墳時代、奈良時代、中世の遺物が検出されている他、古墳時代以前の自然河川の存在が確認されている。



第1図 調査位置図

## 2. 調査概要

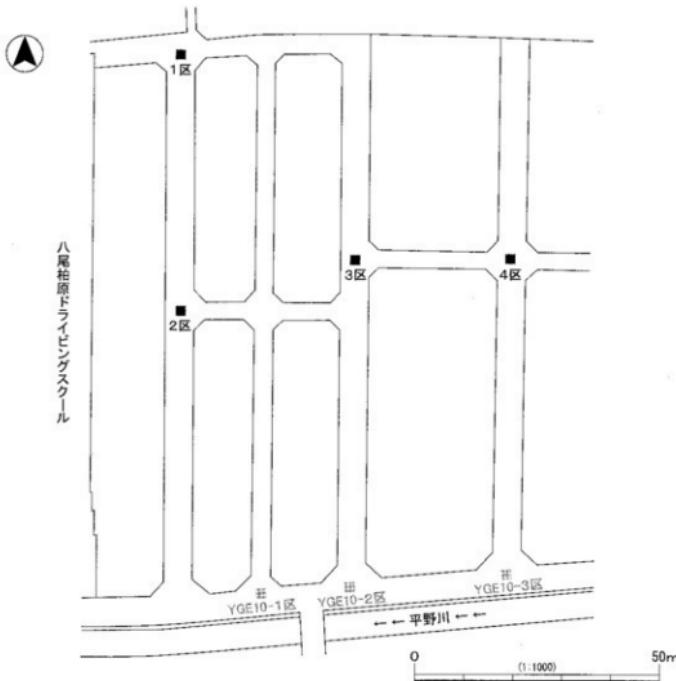
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市志紀町南4丁目地内で実施した下水道工事(22-114工区)に伴う調査で、当調査研究会が弓削遺跡内で行った第13次調査(YGE 2010-13)である。

調査地は道路上に設置される人孔部分4箇所(約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ : 北西から1~4区)で、総面積は約 $16\text{m}^2$ を測る。

調査は現地表(T.P. +13.8~14.1m)下2.3~2.7mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では南部に位置する工事使用のベンチマーク(KBM. 8:T.P. +13.402m)を標高の基準とした。



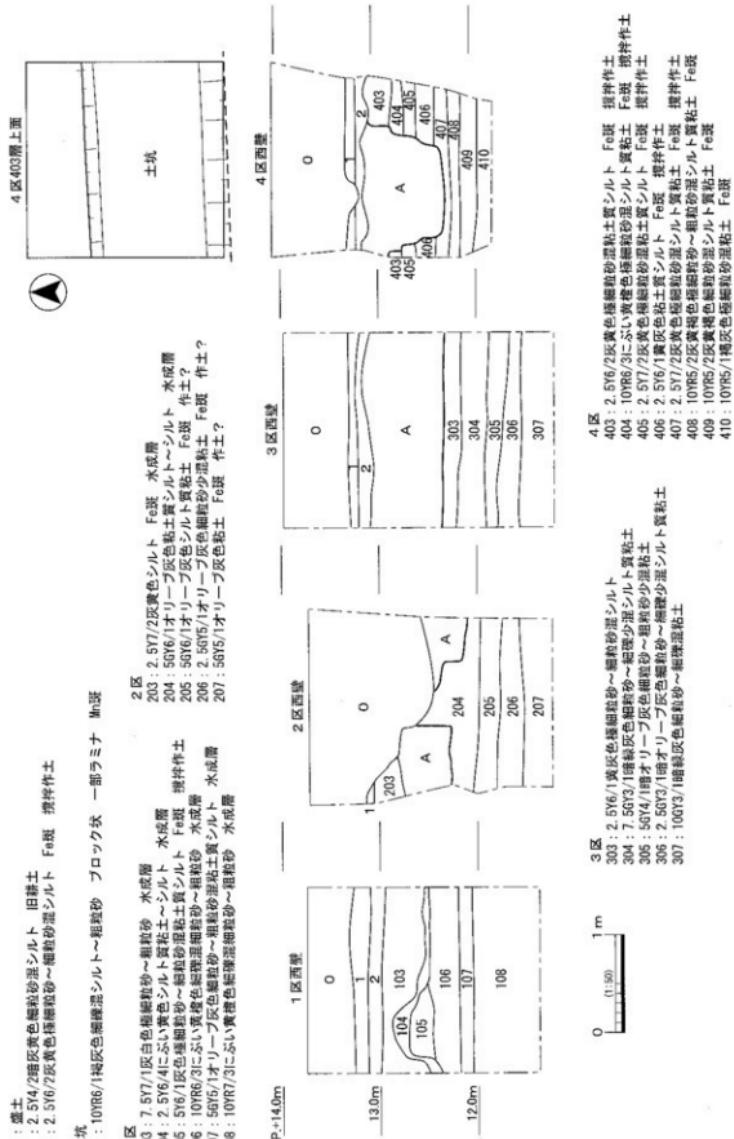
第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序と出土遺物

0層は盛土。1層は旧耕土、2層も近世の作土であり、これらは調査地全域のほぼ同レベルで見られた。

#### 〈1区〉

103・104層は洪水砂と考えられる。105層は作土と考えられ、一部で遺存しているのみである。



第3図 平断面図

106～108層は河川堆積。当地は全体的に流水性の水成層が堆積し、河川域であったと考えられる。108層から磨耗した古式土師器片が出土した。

#### 〈2区〉

A層は造構埋土である。203・204層のシルト基調の水成層は、1区103・104層に対応すると考えられる。205～207層はFe斑を含み作土の可能性がある。205層から奈良時代頃の土師器羽釜片が出土した。

#### 〈3区〉

A層は造構埋土である。303層はやや攪拌されており作土の可能性がある。304～307層は細粒砂～細礫を含む粘土～シルト質粘土である。遺物包含層で、弥生時代中期末～後期の土器が出土した。

#### 〈4区〉

A層は造構埋土である。403～408層はFe斑を含み攪拌された作土である。408層からは弥生土器・土師器の他、12～13世紀に比定される瓦器椀片が出土していることから、403～408層は中世～近世の作土である。409・410層は弥生時代中期末～後期の遺物包含層で、層相は異なるが3区304～307層に対応すると考えられる。

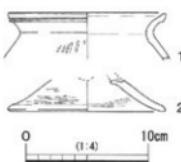
### 3) 検出遺構と出土遺物

#### 土坑

2～4区では2層下面で東西方向に主軸をもつ土坑が検出された。4区では幅1.4m・深さ0.8m・長さ2.0m以上の規模が確認でき、3区では調査区のほぼ全体に及び、2区では2基が並列している状況である。埋土はいずれもプロック状を呈する同一層(A層)であり、同類の遺構と考えられる。なおA層は1区で見られた洪水砂(103層)を起源とする可能性がある。3区では確認できなかったが、2区では水成層、4区では作土層上面から掘り込まれており、層位的に時期は近世であろう。これらの土坑は、池島・福万寺遺跡等で中世末～近世に見られる「災害復旧土坑」・「土採り土坑」と称される遺構に該当するものと考えられる。池島・福万寺遺跡では幅1m～2mで、長さ5m～数十mの規模を有する土坑が確認されていることから、2～4区の土坑のいずれかが繋がっている可能性もある。

#### 3区303・304層出土遺物

弥生土器2点を図化した。1は甕で、口縁端部外面に棱を成し、外端面にはヨコナデによる2条の沈線が生じている。外面の平行タタキの方向は垂直に近い。2は高杯脚裾部で、調整は外面ヘラミガキ、内面ハケで、円孔を施す。



第4図 出土遺物



出土遺物

### 3.まとめ

3・4区では北部・南部・西部の調査地と同様に、弥生時代後期の遺物包含層を確認した。構は見られなかつたが、当該期の集落域に含まれるものと考えられる。中世～近世は全域に生産域が広がつてゐる。1区の洪水砂や河川堆積は、東部の調査地で確認している近世の平野川にあたると考えられる。2～4区検出の土坑はこの洪水砂に伴う「災害復旧土坑」の可能性がある。

#### 参考文献

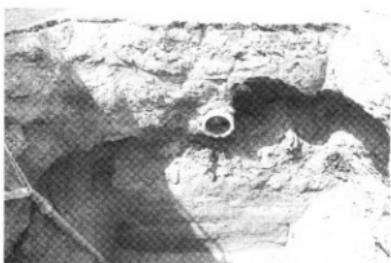
- ・西村公助2003「X-VII 弓削遺跡第4次調査(Y G E 2002-4)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告75」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助2004「X 弓削遺跡第5次調査(Y G E 2003-5)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告78」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・藤井淳弘1999「13.弓削遺跡(98-380)の調査」「八尾市内遺跡平成10年度発掘調査報告書Ⅰ 八尾市文化財調査報告40 平成10年度国庫補助事業」八尾市教育委員会
- ・藤井淳弘2001「14.弓削遺跡(1999-429)の調査」「八尾市内遺跡平成12年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告44 平成12年度国庫補助事業」八尾市教育委員会
- ・木村健明2010「VI 弓削遺跡第8次調査(Y G E 2008-8)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告129」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子2011「IX 弓削遺跡第10次調査(Y G E 2009-10)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告132」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・菊井佳弥2007「2-26 弓削遺跡(2005-504)の調査」「八尾市内遺跡平成18年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告55 平成18年度国庫補助事業」八尾市教育委員会
- ・廣瀬時智・他2007『池島・福万寺遺跡3 (財)大阪府文化財センター調査報告書第158集』財団法人大阪府文化財センター



調査地(南から)



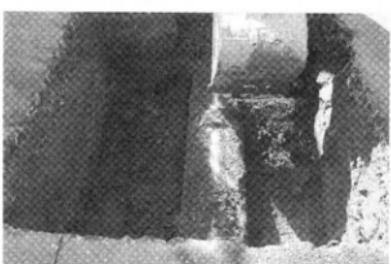
1区西壁



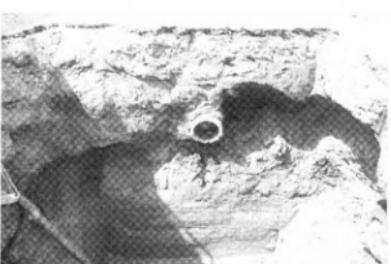
2区西壁



2区最終面(東から)



3区機械脱硫剤(北から)



3区西壁



4区第1面(北から)



4区西壁

XIV 弓削遺跡第14次調査 (Y G E 2011-14)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市志紀町南2丁目地内で実施した下水道工事(22-32工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する弓削遺跡第14次調査(Y G E 2011-14)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年4月25日～4月26日(外業実働2日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約6m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、市森千恵子・芝崎和美・竹田貴子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	81
2.調査概要.....	82
1) 調査の方法と経過.....	82
2) 基本層序と出土遺物.....	82
3) 検出構と出土遺物.....	82
3.まとめ.....	82

## XIV 弓削遺跡第14次調査(Y G E 2011-14)

### 1. はじめに

弓削遺跡は八尾市南東部に位置しており、現在の行政区画では、八尾市志紀町南2丁目・4丁目、弓削町3丁目・弓削町南3丁目の一部、東西約0.5km・南北約0.7kmの範囲がその範囲となっている。

地理的には、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵、西を上町台地、北を淀川に囲まれた河内平野の南部、旧大和川の主流であった長瀬川左岸の沖積地上に位置しており、遺跡範囲内の現地表の標高は、T.P. +12.8~15.0mを測る。当遺跡の周辺には、長瀬川を挟んで北東側には東弓削遺跡が<sup>6</sup>、北西側には志紀遺跡・田井中遺跡・木の本遺跡があり、南側には本郷遺跡(柏原市)が隣接する。当遺跡内では、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会により、また本郷遺跡内では、柏原市教育委員会により発掘調査が行われており、弥生時代前期以降の複合遺跡であることが確認されている。

今回の調査地は遺跡北端部に当たり、周辺では西側隣接地で当調査研究会が第6次調査(Y G E 2005-6)を実施している他、大阪府教育委員会による調査(府1995)が行われている。第6次調査では弥生時代後期、奈良時代、中世の遺構・遺物が検出されており、府1995では中世の土器が出土している。



第1図 調査位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市志紀町南2丁目地内で実施した下水道工事(22-32工区)に伴う調査で、当調査研究会が弓削遺跡内で行った第14次調査(Y G E 2011-14)である。

調査地は国道25号線上に設置される人孔部分2箇所(約1.5×2.0m: 北から1・2区)で、総面積は約6m<sup>2</sup>を測る。

調査は現地表(T.P.+13.8m)下2.6~2.8mまでについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事使用のベンチマーク(KBM.1:T.P.+13.766m)を標高の基準とした。

### 2) 基本層序と出土遺物

0層はアスファルト・パラスである。1層はシルトを含む細粒砂～粗粒砂で盛土と思われる。2層以下は全て水成層である。2層は両区で見られた砂層で、洪水砂であろう。3層以下は両区で堆積状況が異なる。3層は2区で見られた細粒砂～粗粒砂層で、シルト質粘土ブロックを多く含むことから急激な水流が想定できる河川堆積である。南部の第12次調査においても同様の地層を確認しており、対応する可能性もある。4～6層は1区で見られたシルト質粘土～シルト層で、4層は静水性堆積、5・6層は湿地性堆積あるいは作土である。5層からは釘穴を有する丸瓦の玉縁部分が出土しており、時期は近世に比定される。6層からは時期不明の土師器細片が出土した。7層は2区下部を占める砂層で、河川堆積である。一方、1区では対照的に8～10層の湿地性堆積となっている。

### 3) 検出遺構と出土遺物

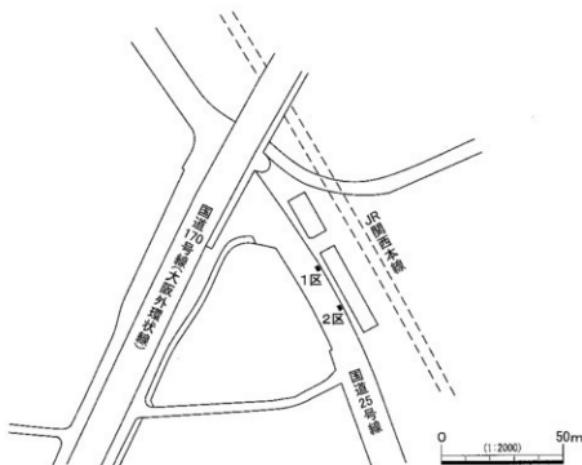
1区8層上面(T.P.+11.8m)で北西～南東方向に延びる溝1条(S D 1)を検出した。東肩の検出で、規模は幅0.8m以上、検出部分の深さ約45cmを測る。埋土はシルト質粘土～極細粒砂の互層であり、性格としては流路あるいは河川が考えられる。遺物は時期不明の土師器片1点が出土したのみで、遺構の時期は明確にできなかった。方向性やレベル等からみて、2区7層はこの埋土に相当する可能性もある。現長瀬川と平行していることから関連する可能性があり、一時期の旧流路とも考えられる。

### 3.まとめ

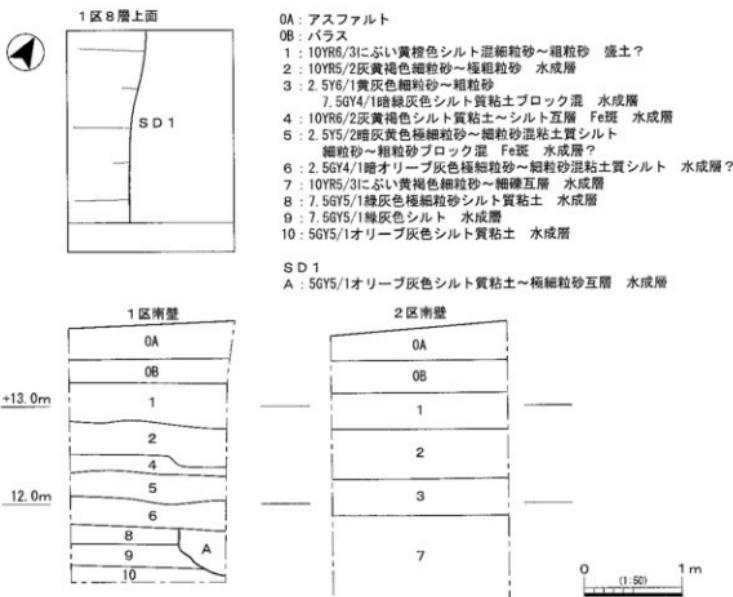
調査で確認した地層は河川堆積や湿地性堆積といった水成層であり、当地が河川域にあたることが確認された。調査地は古大和川の主流であった長瀬川の左岸にあたっていることから、その影響下にあったものと考えられ、永く居住域には適さない地域であったのであろう。宝永元年(1704年)の大和川付替え後には、当地は二俣新田として開発され生産域となっているが、1区で見られた5・6層が該当する耕作土の可能性がある。

### 参考文献

- ・西村公助2007「V 弓削遺跡第6次調査(Y G E 2005-6)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告97』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・岩瀬 透・阿部幸一1995.3『寝屋川南部流域下水道事業に伴う 中垣内・志紀・弓削・太平寺遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会
- ・坪田真一2011「VI 弓削遺跡第12次調査(Y G E 2010-12)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・尾崎良史2000『特別展 絵図が語る八尾のかたち』八尾市立歴史民俗資料館



第2図 調査区位置図



第3図 平断面図



調査地(南から)



1区8層上面SD1(北から)



1区機械掘削(東から)



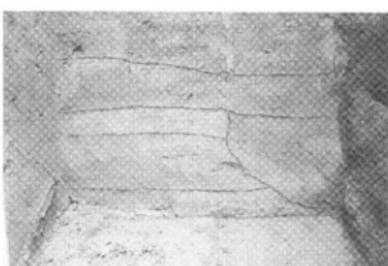
2区機械掘削(東から)



1区南壁



2区南壁



1区南壁下部



2区南壁下部

XV 弓削遺跡第15次調査 (Y G E 2011-15)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市志紀町南4丁目地内で実施した下水道工事(23-108工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する弓削遺跡第15次調査(Y G E 2011-15)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年8月22日～10月12日(外業実働4日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約16m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、芝崎和美・竹田貴子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記を行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
遺物復元－梶本潤二・竹田・田島宣子。遺物実測－村井俊子・村田知子。遺物トレース－市森千恵子。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本 文 目 次

1.はじめに.....	85
2.調査概要.....	87
1) 調査の方法と経過.....	87
2) 基本層序と出土遺物.....	87
3.まとめ.....	88

## XV 弓削遺跡第15次調査(Y G E 2011-15)

### 1. はじめに

弓削遺跡は八尾市南東部に位置する弥生時代前期以降の複合遺跡で、現在の行政区画では、八尾市志紀町南2丁目・4丁目、弓削町3丁目・弓削町南3丁目の一部、東西約0.5km・南北約0.7kmの範囲がその範囲となっている。

地理的には、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵、西を上町台地、北を淀川に囲まれた河内平野の南部、旧大和川の主流であった長瀬川左岸の沖積地上に位置しており、遺跡範囲内の現地表の標高は、T.P.+12.8~15.0mを測る。当遺跡の周辺には、長瀬川を挟んで北東側には東弓削遺跡が、北西側には志紀遺跡・田井中遺跡・木の本遺跡があり、南側には本郷遺跡(柏原市)が隣接する。

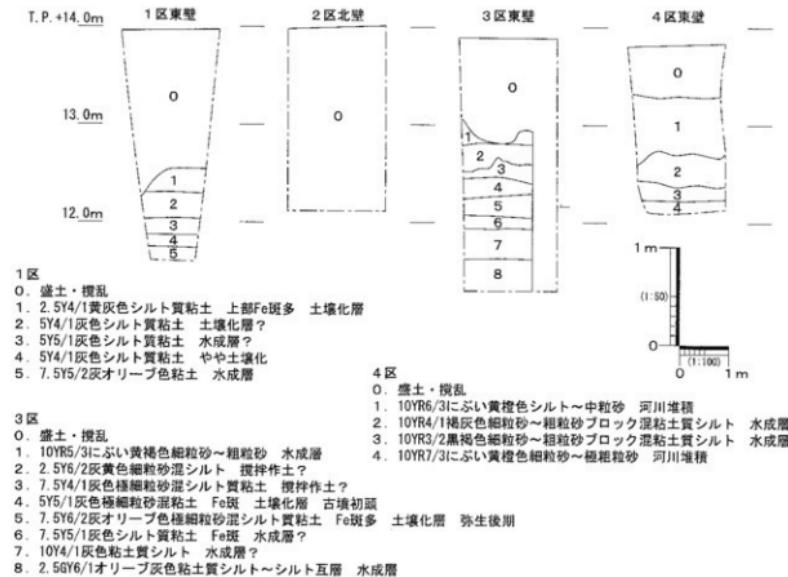
今回の調査地は遺跡南部東に当たり、周辺では当調査研究会が第5・8・10・12次調査を実施している他、八尾市教育委員会・当調査研究会による遺構確認調査が行われている。主な成果としては、今回の調査地と近接する市教委(94-631)や北部の市教委(90-553)では弥生時代後期の土器が大量に検出され、遺構の存在が指摘されている。また南西部の第8次調査(Y G E 2008-8)・第10次調査(Y G E 2009-10)では、弥生時代中期～後期・古墳時代・奈良時代・中世の遺物が検出されている他、古墳時代以前の自然河川の存在が確認されている。



第1図 調査位置図



第2図 調査区位置図



第3図 断面図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市志紀町南4丁目地内で実施した下水道工事(23-108工区)に伴う調査で、当調査研究会が弓削遺跡内で行った第15次調査(Y G E 2011-15)である。

調査地は道路上に設置される人孔部分4箇所(約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ : 北西から1~4区)で、総面積は約 $16\text{m}^2$ を測る。

調査は現地表(T.P.+13.8~14.0m)下1.7~2.6mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では工事使用のベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

第0層は盛土・搅乱。第1・2層は土壤化層で、弥生時代後期~古墳時代初頭の土器を少量含んでいる。第3層以下のシルト質粘土~粘土層は水成層と考えられるが、第4層はやや暗色を呈し、土壤化している可能性がある。

第1層出土の1・2を図化した。1は壺の口縁部、2は有孔鉢の底部である。弥生時代後期末~古墳時代初頭頃に比定される。

#### 2区

調査区全体が既設構造物により搅乱されており、本来の地層は全く認められなかった。

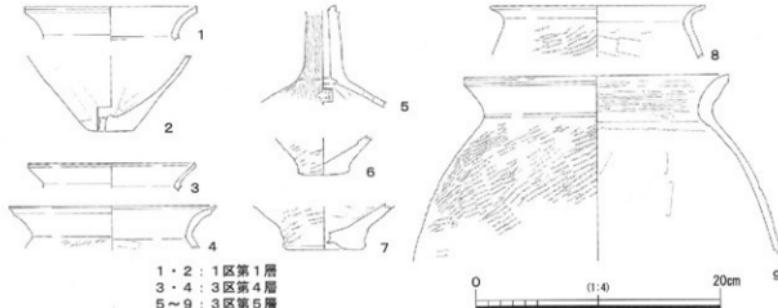
#### 3区

第0層は盛土・搅乱。第1層は河川堆積あるいは洪水砂である。第2・3層は搅拌されており、作土と考えられる。第4・5層は土壤化層で、第4層が古墳時代初頭頃、第5層が弥生時代後期~古墳時代初頭頃の遺物包含層である。調査区南西部では第5層中で土器の集積する状況が見られた。第6層以下はシルト質粘土~シルトからなり水成層と考えられる。

第4層出土の3・4、第5層出土の5~9を図化した。

3・4は壺口縁部。3は庄内式壺で、古墳時代初頭に比定される。4は口縁端部を摘み出すもので、弥生時代後期末に比定される。

5は高杯脚部で脚柱部外面は面取り状にヘラミガキを施す。裾部には四方孔を有する。6~9



第4図 出土遺物

は外面に平行タタキを施す壺で、6・7は底部、8・9は口縁部～体部である。9は口縁部にヨコハケを施し、器壁が非常に厚い。5は古墳時代初頭、6～9は弥生時代後期に比定される。

#### 4区

第0層は盛土・搅乱。以下は河川堆積が続いている。第1・4層はシルト～極粗粒砂の互層からなる河川堆積である。第2・3層は細粒砂～粗粒砂や粘土質シルトのブロック状を呈し、河川の氾濫による地層と考えられる。東方の第12次調査地においても同様の地層を確認している。

### 3.まとめ

調査では西の1・3区で弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物包含層を検出し、当地が該期の集落域に含まれることを確認した。遺構面の標高はT.P. +12.0～12.3mを測る。南の3区では弥生時代後期包含層中に、遺存状態の良好な土器が集積する状況も見られた。一方、東の4区では、東方の第12次調査地と同様の河川堆積が見られ(本書XII)、旧平野川の河川域に含まれるものと考えられる。

#### 参考文献

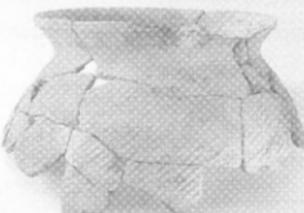
- ・ 清 純1996「17. 弓削遺跡(93-631)の調査」『八尾市内遺跡平成7年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告33 平成7年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・ 清 純1992「5. 弓削遺跡(90-553)の調査」『八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告25 平成3年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・ 荒川和哉2008「2-20 弓削遺跡(2007-54)の調査」『八尾市内遺跡平成19年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告57 平成19年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・ 西村公助2004「X 弓削遺跡第5次調査(Y GE2003-5)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告78』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 木村健明2010「VI 弓削遺跡第8次調査(Y GE2008-8)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告129』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 成海佳子2011「IX 弓削遺跡第10次調査(Y GE2009-10)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告132』財団法人八尾市文化財調査研究会

5



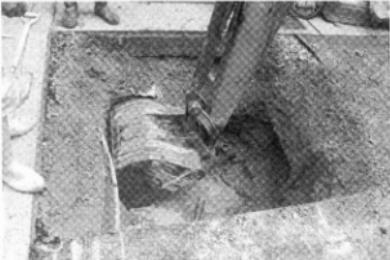
出土遺物

9





1区調査地(南から)



1区機械掘削(西から)



1区(北東から)



1区東壁



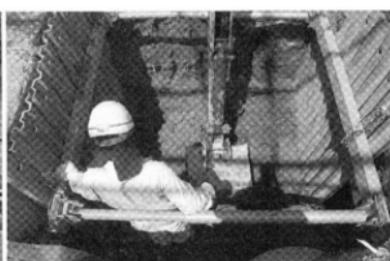
2区機械掘削(東から)



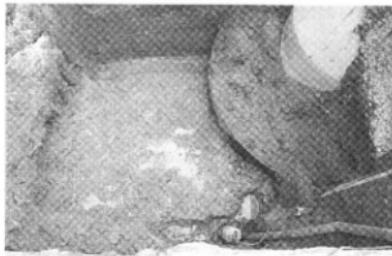
2区(東から)



3区調査地(南から)



3区機械掘削(南から)



3区5層上面(西から)



3区5層内土器出土状況(北から)



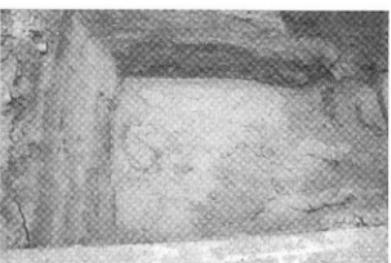
3区東壁



3区北壁下層



4区機械掘削(北から)



4区(西から)



4区東壁



4区調査状況(北西から)

XVI 龍華寺跡第4次調査（R K2010-4）

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市陽光園2丁目地内で実施した公共下水道工事(22-27工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する龍華寺跡第4次調査(RK2010-4)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成22年2月28日～3月2日(夜間実働3日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約40m<sup>2</sup>である。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　遺物実測－永井律子、他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　　目　　次

1.はじめに.....	91
2.調査概要.....	93
1) 調査の方法と経過.....	93
2) 基本層序と出土遺物.....	93
3) 検出遺構と出土遺物.....	93
3.まとめ.....	94

## XVI 龍華寺跡第4次調査(RK2010-4)

### 1.はじめに

龍華寺跡(竜華寺跡)は安中廃寺とも称され、八尾市中央部西に位置し、現在の行政区画の陽光園2丁目、安中町6丁目の一部がその範囲と推定されている。地理的には旧大和川の主流であつた長瀬川右岸の沖積地上に位置しており、周辺では北に成法寺遺跡、東に矢作遺跡が隣接するほか、長瀬川を挟んで西~南には跡部遺跡・植松遺跡が立地している。

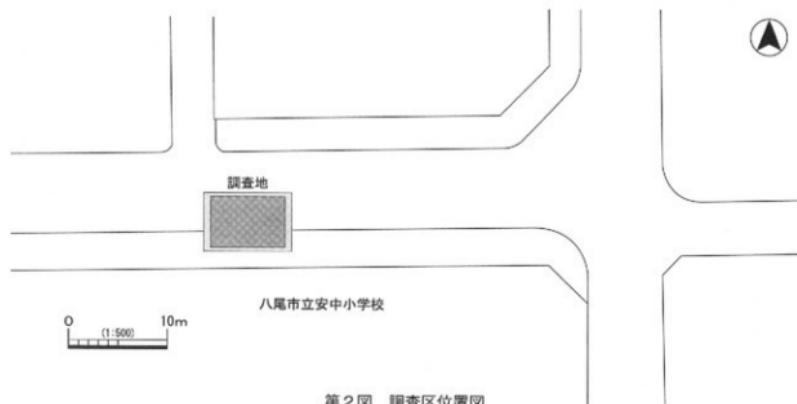
本寺院は、奈良時代に称徳天皇が参詣したとして『続日本紀』に名が見られる『龍華寺』に該当すると考えられており、かつては当地の小字大門に「唐居敷」と呼ばれる2個の礎石が付近の畠の中(陽光園2丁目8番:私立安中小学校の南西)に東西に並んでいたという記録がある。そして現在は、推定地にあたる市立安中小学校校庭に、昭和5(1930)年建碑の『古蹟 龍華寺跡』銘の石碑が保存されている。

龍華寺跡では当調査研究会がこれまでに3度の発掘調査を実施している。北部の第1次調査(RK90-1)では、東西方向の溝から15世紀代の土器・陶磁器・屋瓦・木器が多く出土した。南東部の第2次調査(RK91-2)の溝からは、13~15世紀の土器等と共に『蘇民将来』の「呪付木簡」が出土しており注目される。第1次調査南側の第3次調査(RK93-3)でも同時期の井戸・土坑・溝等が検出され、多くの土器と共に井戸からは12世紀後半頃の梵字蓮華紋軒丸瓦や鬼瓦を含む多量の屋瓦片が出土し、調査地南側に中世寺院の存在が指摘されている。

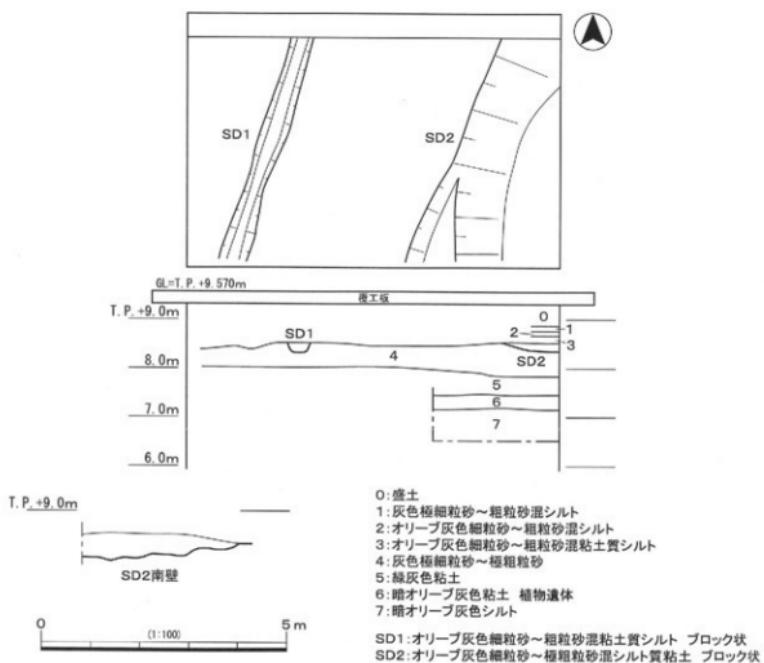
このように、これまでの調査では、中世以降の遺構・遺物の検出に止まっており、奈良時代の『龍華寺』の存在を裏付ける成果は認められていない。



第1図 調査位置図



第2図 調査区位置図



第3図 平断面図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市陽光園2丁目地内で実施された公共下水工事(22-27工区)に伴う調査で、当調査研究会が龍華寺跡で行った第4次調査(R K 2010-4)である。

調査地は東西方向の道路上に設定された立坑部分(東西7.6m×南北5.2m)で、総面積は約40m<sup>2</sup>を測る。

調査は工事掘削深度である現地表(T.P.+9.57m)下0.7~1.2mまでについて、人力・機械を併用しての掘削により、遺構・遺物の検出に勤めた。なお調査地は道路上に位置するため、北半・南半に分割しての調査となった。さらに以下の工事掘削においては、現地表下3.0mまでについての断面観察を行った。

調査で使用した標高値の基準は、工事図面記載のG L : T.P.+9.57mである。

### 2) 基本層序と出土遺物

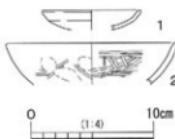
0層は盛土。1~3層については調査地北東部で確認した。近世頃の作土と思われるが、3層については第3次調査で確認している鎌倉時代後期~室町時代の遺物包含層に相当する可能性があり、同時期頃の土師器・瓦器細片が少量出土した。4層の細粒砂~粗粒砂は河川堆積である。5層以下は北東部で確認した。5~7層は粘土基調で、湿地性堆積である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

4層上面(約T.P.+8.5m)で溝2条(S D 1・2)を検出した。

#### S D 1

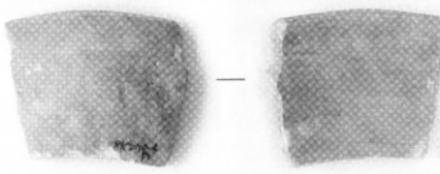
西部で検出した北東~南西方向に直線的に伸びる溝である。規模は検出長約5.5m・幅40~60cm・深さ20~25cmで、底のレベルは北端に比して南端が10cm程度低い。断面逆台形を呈し、埋土はブロック状の單一層である。遺物は中世の土師器・瓦器・平瓦が少量の他、古墳時代後期頃の須恵器杯身片が1点出土した。1は土師器皿、2は瓦器碗である。12世紀後半頃に比定される。



第4図 SD 1出土遺物

#### S D 2

東部で検出した溝で、SD 1に平行する西肩から東に落ち込み、東は調査区外に至る。規模は検出長約5.5m・幅3.0m以上・深さ最大約60cmを測る。断面皿状を呈し、埋土はブロック状の單一層である。遺物は中世の土師器・須恵器が少量の他、古代に遡る可能性がある土師器皿細片が



2

遺物写真

1点出土した。

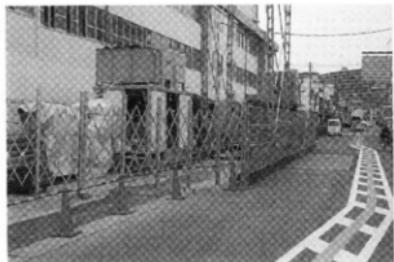
### 3.まとめ

調査では中世に比定される溝2条を検出した。北東-南西方向に伸びるもので、西の長瀬川と直交すると見え、有機的に関連する可能性もある。北西部約50mの第3次調査では、井戸・土坑等から多量の遺物が出土していることから集落の中心と考えられ、また南に中世寺院の存在も想定された。今回の調査地は出土遺物も少量であり、これらの集落域・寺城の東に外れているものと考えられる。

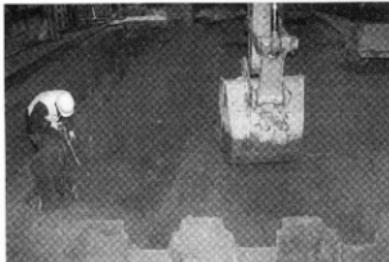
#### 参考文献

- ・山本 博1971『竜田越』学生社
- ・坪田真一1990「21. 竜華寺跡(R K90-1)」「八尾市文化財調査研究会年報 平成元年度 財団法人八尾市文化財調査研究会報告28」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋1992「X II 竜華寺跡第2次調査(R K91-2)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 財団法人八尾市文化財調査研究会報告34」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋1998「III 竜華寺跡第3次調査(R K93-3)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告59」財団法人八尾市文化財調査研究会

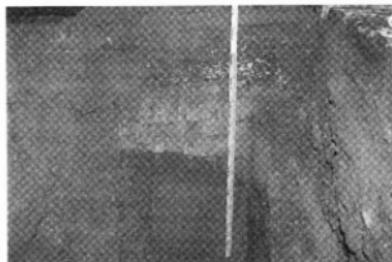
※『八尾市埋蔵文化財分布図』によると、昭和63年度版～平成19年度版では遺跡名が「竜華寺跡」となっており、調査においてもこれに準じている。



調査地(東から)



機械振削(東から)



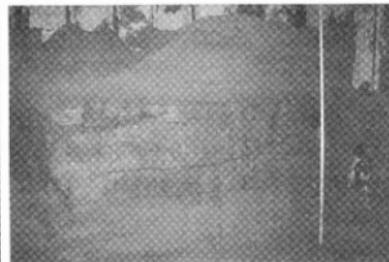
北壁上層北東部角



北壁西部



北壁東部



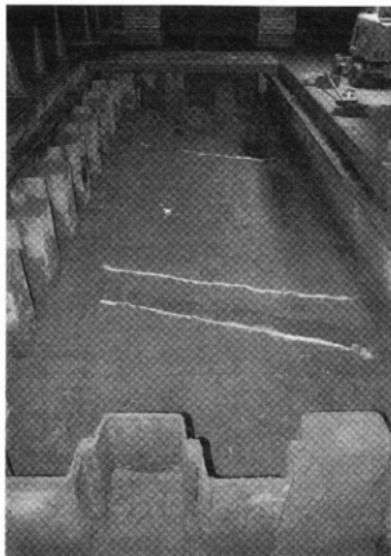
北壁下層東部



SD 1 北壁



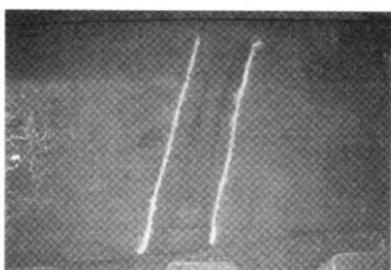
SD 2 南壁



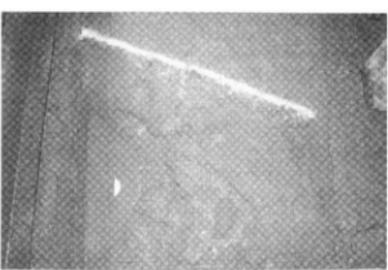
第1面北半(西から)



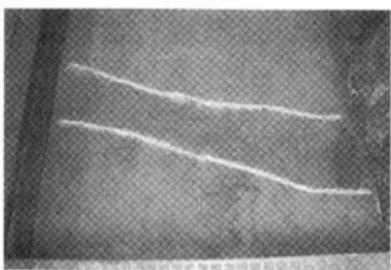
第1面南半(西から)



SD 1 北半(北から)



SD 2 北半(東から)



SD 1 南半(西から)



SD 2 南半(北から)

# 報告書抄録

ふりがな	おおたいせき おんぢいせき かめいきたいせき きのもといせき たいしどいせき にしごおりはいじゆげいせき りゅうじでらあと
書名	太田遺跡 恵智遺跡 亀井北遺跡 木の本遺跡 太子堂遺跡 西郡廃寺 弓削遺跡 龍華寺跡
副書名	
シリーズ名	財団法人 八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	136
著者名	坪田真一
編集機関	財団法人 八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2 TEL・FAX 072-994-4700
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡	所 在 地	コード 市町村 遺跡 番号	北緯	東經	調査期間	調査面積 (af)	調査 原因
			度 分 秒	度 分 秒			
おおたいせき 太田遺跡 (第10次調査)	おおさかふやおしょおわたしまる1・3ちょうめ 大阪府八尾市太田新町1・3丁目	27212 68	34度 35分 38秒	135度 35分 10秒	20111025 20111201	約 8	記録保存調査 公共下水道工事 (23-37工区)
おおたいせき 太田遺跡 (第11次調査)	おおさかふやおしょおわたしまる2ちょうめ 大阪府八尾市太田新町2丁目	27212 68	34度 35分 37秒	135度 35分 27秒	20111109 ~ 20111111	約12	記録保存調査 公共下水道工事 (23-37工区)
おんじいせき 恵智遺跡 (第22次調査)	おおさかふやおしょおしまなだら2ちょうめ 大阪府八尾市恵智本郷2丁目	27212 30	34度 36分 43秒	135度 37分 46秒	20100913 ~ 20100916	約21.7	記録保存調査 公共下水道工事 (22-20工区)
おんじいせき 恵智遺跡 (第23次調査)	おおさかふやおしょおしまなだら2ちょうめ 大阪府八尾市恵智中町2丁目	27212 30	34度 36分 37秒	135度 37分 54秒	20111024 ~ 20111208	約20	記録保存調査 公共下水道工事 (23-20工区)
かのじいせき 亀井北遺跡 (第1次調査)	おおさかふやおさかしらのくみもちょうめ 大阪府大阪市平野区加美南4丁目	27212	34度 37分 19秒	135度 34分 31秒	20110215 ~ 20110221	約25	記録保存調査 公共下水道工事 (22-28工区)
かのじいせき 木の本遺跡 (第18次調査)	おおさかふやおしみんなみのともと2ちょうめ 大阪府八尾市南木の本2丁目	27212 35	34度 36分 19秒	135度 35分 23秒	20100517 ~ 20100605	約10.3	記録保存調査 公共下水道工事 (21-30工区)
かのじいせき 木の本遺跡 (第19次調査)	おおさかふやおしみんなみのともと2ちょうめ 大阪府八尾市南木の本5・6丁目	27212 35	34度 36分 05秒	135度 35分 30秒	20101006 ~ 20101019	約16	記録保存調査 公共下水道工事 (22-39工区)
かのじいせき 木の本遺跡 (第20次調査)	おおさかふやおしみんなみのともと3ちょうめ 大阪府八尾市南木の本3丁目	27212 35	34度 36分 25秒	135度 35分 18秒	20101102 ~ 20101206	約20	記録保存調査 公共下水道工事 (22-38工区)
かのじいせき 木の本遺跡 (第22次調査)	おおさかふやおしみんなみのともと3ちょうめ 大阪府八尾市南木の本9丁目	27212 35	34度 36分 06秒	135度 35分 36秒	20101130 ~ 20110414	約16	記録保存調査 公共下水道工事 (22-40工区)
たいじいせき 太子堂遺跡 (第14次調査)	おおさかふやおしみんなみのともと3ちょうめ 大阪府八尾市南太子堂2丁目	27212 62	34度 36分 40秒	135度 35分 23秒	20110901 ~ 20110907	約12	記録保存調査 公共下水道工事 (23-32工区)
にじごれいせき 西郡廃寺 (第8次調査)	おおさかふやおしーぜみる2ちょうめ 大阪府八尾市泉町2丁目	27212 46	34度 38分 52秒	135度 36分 13秒	20100907 ~ 20100918	約20	記録保存調査 公共下水道工事 (22-2工区)
かげいせき 弓削遺跡 (第12次調査)	おおさかふやおこきらうこきらうみみなみ3ちょうめ 大阪府八尾市志紀町南3丁目	27212 71	34度 35分 37秒	135度 37分 05秒	20101216 ~ 20110210	約20	記録保存調査 公共下水道工事 (22-33工区)
かげいせき 弓削遺跡 (第13次調査)	おおさかふやおしらみくらみくらみ3ちょうめ 大阪府八尾市志紀町南4丁目	27212 71	34度 35分 37秒	135度 36分 57秒	20110222 ~ 20110329	約16	記録保存調査 公共下水道工事 (22-114工区)
かげいせき 弓削遺跡 (第14次調査)	おおさかふやおしらみくらみくらみ3ちょうめ 大阪府八尾市志紀町南2丁目	27212 71	34度 35分 55秒	135度 37分 01秒	20110425 ~ 20110426	約 6	記録保存調査 公共下水道工事 (22-32工区)
かげいせき 弓削遺跡 (第15次調査)	おおさかふやおしらみくらみくらみ3ちょうめ 大阪府八尾市志紀町南4丁目	27212 71	34度 35分 36秒	135度 37分 03秒	20110822 ~ 20111012	約16	記録保存調査 公共下水道工事 (23-108工区)
きゅうげいせき 龍華寺跡 (第4次調査)	おおさかふやおしらみくらみくらみ3ちょうめ 大阪府八尾市陽光園2丁目	27212 44	34度 37分 09秒	135度 36分 01秒	20110228 ~ 20110302	約40	記録保存調査 公共下水道工事 (22-27工区)

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層	主な遺物	特記事項
太田遺跡 (第10次調査)	集落	弥生時代前期～中期 弥生時代後期	遺物包含層 溝	弥生土器 弥生土器	
太田遺跡 (第11次調査)	集落	弥生時代後期 近世	土坑 自然河川	弥生土器、砥石	
恵智遺跡 (第22次調査)	集落	弥生時代中期	遺物包含層	弥生土器	
恵智遺跡 (第23次調査)	集落	弥生時代中期 古墳時代前期 平安時代後期	井戸 遺物包含層 溝	弥生土器 古式土師器 瓦器輪、土師器里、羽釜	
亀井北遺跡 (第1次調査)	集落	古墳時代前期	遺物包含層	古式土師器	
木の本遺跡 (第18次調査)	集落	古墳時代中期～後期 平安時代後期	遺物包含層 自然河川	土師器・須恵器・韓式系土器	
木の本遺跡 (第19次調査)	集落	中世	耕作土		
木の本遺跡 (第20次調査)	集落	中世	耕作土	土師器	
木の本遺跡 (第22次調査)	集落	中世	耕作土		
太子堂遺跡 (第14次調査)	集落	中世	耕作土		
西郡廟寺 (第8次調査)	社寺	中世？ 近世	自然河川 土坑	土師器・須恵器・平瓦	
弓削遺跡 (第12次調査)	集落	近世	自然河川		
弓削遺跡 (第13次調査)	集落	弥生時代中期末～後期	遺物包含層	弥生土器	
弓削遺跡 (第14次調査)	集落	不明	溝		
弓削遺跡 (第15次調査)	集落	弥生時代後期 古墳時代初頭	遺物包含層 遺物包含層	弥生土器 古式土師器	
龍華寺跡 (第4次調査)	社寺	中世	溝	土師器・瓦器・平瓦	

要 約	太田10次では弥生時代前期～中期の遺物包含層、後期の遺構を検出した。弥生時代前期は太田遺跡内での確認である。恵智22次、弓削13次では弥生時代中期末～後期、亀井北1次では古墳時代前期、木の本18次では古墳時代中期～後期の遺物包含層を確認した。太田11次では弥生時代後期の土坑、恵智23次では弥生時代中期の井戸、恵智23次・龍華寺跡4次では中世の溝、木の本18次では平安時代後期、西郡廟寺8次では中世、弓削12次では近世の自然河川を検出した。
-----	--

財団法人八尾市文化財調査研究会報告136

- I 太田 遺跡 (第10次調査)
- II 太田 遺跡 (第11次調査)
- III 恩智 遺跡 (第22次調査)
- IV 恩智 遺跡 (第23次調査)
- V 亀井北遺跡 (第1次調査)
- VI 木の本遺跡 (第18次調査)
- VII 木の本遺跡 (第19次調査)
- VIII 木の本遺跡 (第20次調査)
- IX 木の本遺跡 (第22次調査)
- X 太子堂遺跡 (第14次調査)
- XI 西郡廃寺 (第8次調査)
- XII 弓削 遺跡 (第12次調査)
- XIII 弓削 遺跡 (第13次調査)
- XIV 弓削 遺跡 (第14次調査)
- XV 弓削 遺跡 (第15次調査)
- XVI 龍華寺跡 (第4次調査)

発行 平成24年3月  
編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会  
〒581-0821  
大阪府八尾市幸町四丁目58番地2  
TEL・FAX072-994-4700

印刷 徳近畿印刷センター  
表紙 レザック66 <260Kg>  
本文 ニューエイジ <70Kg>  
図版 ニューエイジ <70Kg>

